

鳥取県東部農業の概要



らっきょうの収穫（鳥取市福部町海士）

令和4年6月

鳥取県東部農林事務所

目次

I	東部地区(鳥取市、岩美町)農業の概要	1
1	現状と課題	1
2	今後の方向	3
II	農地	5
1	土地利用の状況	5
2	耕地面積	5
3	農業基盤の整備状況	6
4	荒廃農地の状況	6
5	担い手への集積農地面積の動向	7
III	農家・農業者の状況	8
1	農家戸数	8
2	農業者数等	9
3	農業者年齢	10
4	認定農業者数	11
5	新規就農者数	11
6	集落営農組織数	12
IV	主な農畜産物の生産、販売状況	13
1	水稲	13
2	らっきょう	14
3	白ねぎ	15
4	アスパラガス	16
5	梨	17
6	柿	18
7	乳用牛	19
8	肉用牛	20
9	豚	21
10	鶏	22
V	鳥獣害の状況	23
VI	日本型直接支払制度の取り組み概要	25
1	多面的機能支払交付金(農地維持)	25
2	中山間地域等直接支払交付金	25
3	環境保全型農業直接支払交付金	26
VII	集落営農法人一覧	27

I 東部地区(鳥取市、岩美町)農業の概要

東部農林事務所は、基本、鳥取市と岩美町の1市1町をエリア（以下、「東部地区」という。）としている。

ただし、農地関係業務（基盤整備、農地転用）は、若桜町、智頭町、八頭町も所管している。

鳥取市は、平成16年に1市6町2村（旧鳥取市、国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町）が合併し、県内最大の人口18万3千人（令和4年5月31日現在）を有し、鳥取砂丘や湖山池など美しい自然に恵まれている。岩美町は、人口1万1千人（令和4年6月1日現在）で、山陰海岸国立公園の景勝地を有した自然豊かな町である。

1 現状と課題

- ・耕地面積は減少し、荒廃農地は逆に増加傾向にある。このため、担い手農業者の確保とともに農地集積を進めるなどして優良農地を確保していく必要がある。
- ・東部地区は水田が多く、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「きぬむすめ」といった良食味米の生産に加え、県オリジナル品種「星空舞」の栽培も進んでいるが、昨今の米価下落により、今後、飼料用稲(WCS)や飼料用米(SGS含む)の生産や高収益作物の栽培も必要である。
- ・水田転作作物として、白ねぎが定着しているが、さらに中山間地域の特産物としてアスパラガスを推進していく必要がある。
- ・果樹は、傾斜地において二十世紀等の梨を中心に栽培されていたが、生産者の高齢化等により栽培面積が減少している。品種産地維持に向けて、梨「新甘泉」や柿「輝太郎」やブドウ「シャインマスカット」等の栽培面積の増加も必要である。
- ・砂丘畑では、らっきょうは平成28年3月にG I（地理的表示）を取得し、販売額は10億円維持を目指しているが、近年減少傾向にあり、維持に向けた取組が必要である。
- ・イチゴの県育成品種「とっておき」の生産が新規農業参入法人を中心に増加しており、産地化に向けた取組が必要である。

(1)農地の状況

○耕地面積は年々減少しているが、荒廃農地は近年、増加傾向にある。これは、荒廃農地の解消を図る施策により農地としての再生利用を進めているものの、高齢化による荒廃のスピードが速いためと考える。また、中間管理事業の活用など担い手への農地集積は年々増加しているものの鈍化してきており、さらに加速化させることが必要である。

耕地面積 7,887ha (H28年) ⇒ 7,687ha (R3年) △200ha

荒廃農地面積 142ha (H28年) ⇒ 217ha (R3年) 75ha 増

(2)担い手・新規就農者の状況

○2020年農林業センサスでは、農業就業人口の調査項目が削減された。代わって農業従事者（自営農業に従事した世帯員数）（個人経営体）が調査項目となった。

農業就業人口 6,534人 (H27年) ⇒ 農業従事者数 8,853人 (R2年)

平均年齢(県) 68.7歳 (H27年) ⇒ 世帯員の平均年齢(農業従事者) (県) 63歳 (R2年)

○また、認定農業者は平成20年をピークに近年減少ないし横ばい傾向である。地域農業を担う集落営農組織は増加していたが近年横ばいとなっている。認定農業者の減少は、高齢化等の理由で再認定を受ける者が減少したものと考える。

認定農業者数 154 (H17年) ⇒ 171 (H20年) ⇒ 135 (R3年)

集落営農組織数 84 (H28年) ⇒ 83 (R3年)

うち法人数 21 (H28年) ⇒ 23 (R3年)

○新規就農者は、平成21年度以降、大きく増加したものの近年15名程度で横ばいとなっている。アグリスタート研修、農の雇用や国・県・市の給付金事業など、各種支援策の充実に加え、農業・農村に関心を持つ若者が増えていることと、これら業務に携わる各機関の尽力によるところが大きい。産地として地域一体となった受入体制の整備が喫緊の課題である。

新規就農者数 18人 (H28年) ⇒ 15人 (R3年)

うち法人等への就職12人

(3) 農業生産の状況

○水稲作付面積は、103ha減少し、3,572ha (R2 3,675ha) となっている。

新品種「星空舞」の令和3年作付けは、481ha (R2 368ha) と面積拡大が進んでいる。

・令和3年：コシヒカリ1,055ha (R2 1112ha) ひとめぼれ906ha (R2 969ha)

きぬむすめ784ha (R2 887ha)

○非主食米は、飼料用米142ha (R2 56ha)、飼料用稲(WC S) 160ha (R2 152a)

○東部地区を代表する特産物のらっきょうは、生産者数は減少しているものの、栽培面積は110ha以上を確保している。平成28年にG I (地理的表示) を取得したこともあり、ここ数年の販売額はおおむね10億円を維持している。しかし、らっきょうの切り子、植え子の労働力確保が課題となってきた。

なお、栽培の歴史は古く、平成26年に本格的な生産開始から100周年を迎えた。

生産者数 72戸 (H28) ⇒ 62戸 (R3)

栽培面積 114ha (H28) ⇒ 112ha (R3)

出荷量 1,831t (H28) ⇒ 1,404t (R3)

販売額 1,074百万円 (H28) ⇒ 931百万円 (R3)

○水田転作作物として導入された白ねぎは、平成25年度からJAが「がんばる地域プラン事業」を活用して振興を図り、農家数、栽培面積ともに増加していたが、近年は新規生産者や企業参入、機械化等による規模拡大が図られる一方で高齢化による生産中止もあり、栽培面積、販売額は横ばいである。

生産者数 191戸 (H28) ⇒ 145戸 (R3)

栽培面積 28.0ha (H28) ⇒ 31.9ha (R3)

出荷量 299t (H28) ⇒ 339t (R3)

販売額 124百万円 (H28) ⇒ 125百万円 (R3)

○アスパラガスは、米価下落に伴う水田転作作物としてJAと行政が一体となって平成27年度から推進を開始したところである。平成28年度から国の産地パワーアップ事業に取り組み、低コストハウス(令和元年度より雨よけ栽培)の導入による品質及び収量の安定化を図っている。

○梨については、令和3年度に栽培面積がやや増加したものの、高齢化等により生産者数、栽培面積、出荷量、販売額いずれも減少傾向。そのような中、県育成品種「新甘泉」を中心にジョイント栽培などによる新品種の導入が進んでいる。

生産者数 214戸 (H28) ⇒ 149戸 (R3)

栽培面積 76.3ha (H28) ⇒ 63.3ha (R3)
出荷量 1,240t (H28) ⇒ 779t (R3)
販売額 426 百万円 (H28) ⇒ 392 百万円 (R3)

○畜産については、酪農では、生産戸数に変化はないが、大規模農場が新たに建設されたため、飼育頭数が増頭している。また、肉用牛については平成29年度全国和牛共進会の好成績後、県内子牛相場が高騰し、生産者の増頭意欲が高まり、県の導入事業等により雌牛頭数が増加した。肉用肥育牛も平成30年3月に建設されたたいかり原牧場の効果により令和3年度は前年度から増頭している。

(4) 鳥獣害の状況(R3)

被害額：イノシシ21,469千円、シカ3,728千円、その他7,816千円 計33,013千円
捕獲頭数：イノシシ3,469頭、シカ3,365頭、ヌートリア429匹、アライグマ16頭、カラス164羽等

(5) 農地等保全活動(日本型直接支払制度)の状況(R3)

○多面的機能支払交付金(農地維持支払)
活動組織数145(前年より2増)、保全活動面積3,411ha(前年より96ha増)。農振農用地面積に占める割合は55.8%。
○中山間地域等直接支払交付金活動
活動組織数121(前年より3増)、保全活動面積1,017ha(前年より61ha増)。農振農用地面積に占める割合は16.6%。

2 今後の方向

【県農業生産1千億円達成プランの推進】

○県は、平成30年3月に「鳥取県農業生産1千億円達成プラン」を策定したが、新型コロナウイルス感染症による農産物需要の減少等、農業における社会的影響を考慮し、令和3年12月に改訂(見直し)した。

令和12年度の農業生産1千億円達成を目指し、まずは令和7年度に900億円達成するため県下一円を取り組んでいく。

(プランの基本方針)

- ・10年後を支える多様な担い手が活躍できる環境を整えます。
- ・産地力をアップし、農業所得を高めます。
- ・「食のみやこ鳥取県」の魅力を国内外に発信します。
- ・地域の農業を元気にし、農とともに生きる鳥取県を実現します。

【産地プロジェクトの取組み】

○東部農林事務所では、次の6つの課題について推進チームを設置し、JA等関係機関と連携して取組みを強化します。

- ①らっきょう(販売額10億円と面積維持114ha)
- ②白ねぎ(面積拡大49ha⇒56ha)
- ③アスパラガス(販売額1億円)
- ④佐治梨(新甘泉販売額4,500万円)
- ⑤国府ブドウ(販売額4,000万円)
- ⑥いちご(栽培農家数増24戸⇒28戸、面積拡大220a⇒260a)

(1)新規就農者、担い手の育成

○アグリスタート研修など新規就農者に対する支援施策の充実により、次世代を担う農業者は徐々にではあるが増えていることから、今後とも新規就農者への支援を強化する。

○東部は水田地域であり、水田農業を維持していくためにも、地域ごとに策定された「人・農地プラン」の充実とその実施を図る。また、農地中間管理事業などの活用により、担い手への農地利用集積を促進するとともに、大規模経営体や集落営農組織（法人）の育成を図る。

(2)水田農業の複合経営推進

○収量・品質が期待できる「きぬむすめ」及び県育成の新品種「星空舞」の作付けをさらに推進する。

○水田農業の複合経営を推進し、所得の安定化を図るため、次の2品目を重点的に推進する。

〔白ねぎ〕

・らっきょうに次ぐ特産物として、平成25～30年度にJA鳥取いなばが「いなば白ねぎ倍増プラン」を実施し、栽培面積は徐々に増えた。さらに栽培推進中であり、品質が良く安定的に収入が期待できる白ねぎの振興を図る。

〔アスパラガス〕

・白ねぎに加え、中山間地域の特産物として市場からのニーズも高いアスパラガスについて、普及所、JAなどが中心となって雨よけ栽培等の推進や安定多収の栽培マニュアルを作成し、国・県事業を活用して、市町も含めたプロジェクトとして生産拡大を図る。

(3)園芸品目の新たな取り組み

○らっきょうについては、切り子不足対策として令和2年度に洗いらっきょう根葉切機を開発し、16台が導入された。機械の活用と導入を推進し、出荷調整の省力化を図る。

○梨については、特に「新甘泉」の市場評価が高く、高値で販売されている。このような県オリジナル品種を中心として、作業の省力化となるジョイント栽培の導入を推進しながら生産拡大を図る。

また、優良果樹園を次の世代に残していくための取組を行う。

○柿の新品種である「輝太郎」も、早生で販売単価が高いことから、生産拡大を図る。

○ぶどうについては、地元からの強い要望で令和2年度に1.0haの新植団地として国・県事業を活用して雨よけハウス等の施設整備を行った。JA、市、県が一体となってさらなる産地振興を図る。

○県育成品種のイチゴ「とっておき」は本県の気象条件においても多収・高品質な品種として育成され、平成30年10月に品種登録されて以来、栽培面積が年々増加している。また、新たな参入法人が「とっておき」を中心に県事業等を活用して大規模な生産を開始するなど、生産拡大が著しい。

(4)畜産の振興

○和牛繁殖雌牛の増頭により繁殖基盤を強化し、白鵬85の3等県有高能力種雄牛を交配することで高品質牛肉の増産を図る。

○酪農では、水田を活用した自給飼料の確保に努めつつ大規模酪農場を核として、安定した生乳生産による収益性の高い畜産経営に取り組む。

(5)農地・水路等保全活動、鳥獣被害対策の推進

○農業農村を維持していくために、地域で農地・施設等の維持保全や鳥獣被害対策のための活動を今後も推進する。特に中山間地域での活動を増加させる。

○さらに、水を供給するため池、頭首工、幹線水路など主要な水利施設の老朽化に対して補修、更新などを推進する。また、農地の排水改良を進め、多様な農業への取り組みや担い手の農地・水管理の省力化を進める。

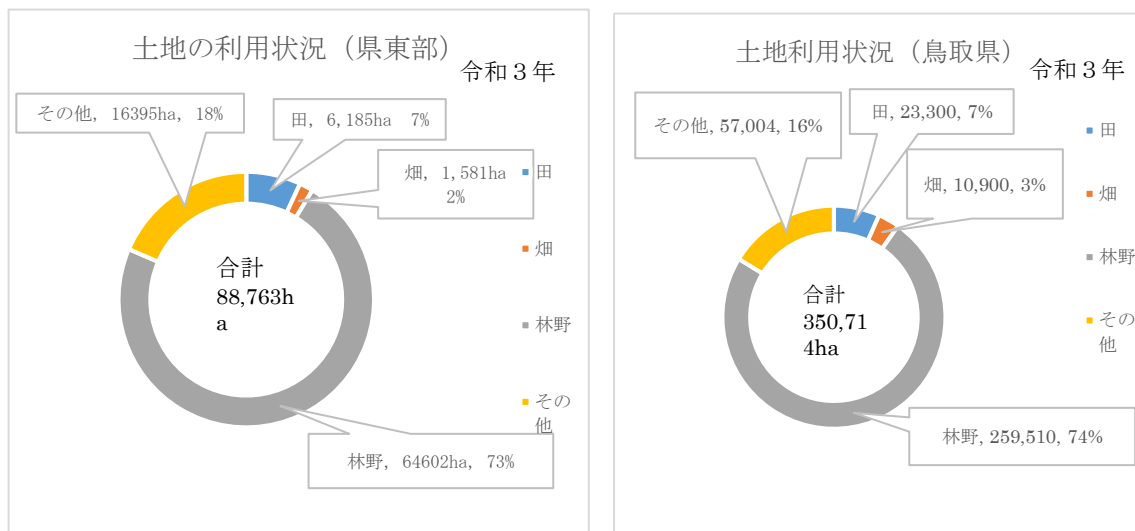
(6)ため池防災体制の整備

近年頻発している豪雨災害に備え、防災重点農業用ため池を中心にため池管理者との連絡体制及びハザードマップを整備するとともに、ため池の防災工事等を集中的かつ計画的に推進する。

II 農地

1 土地利用の状況

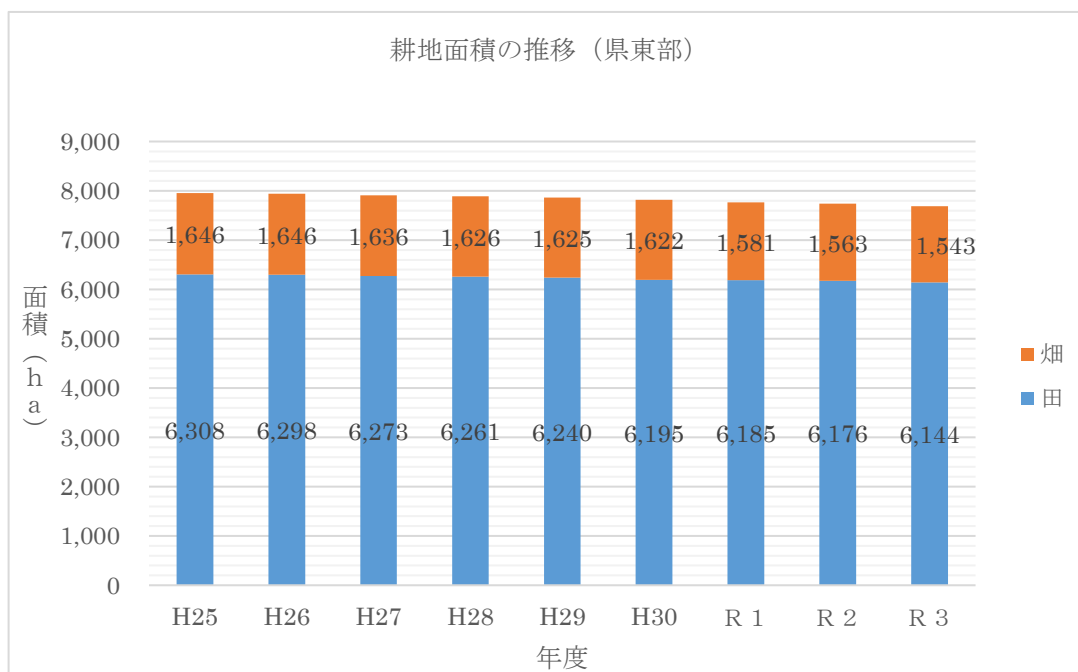
田、畑率は9%と、県全体の10%とほぼ同等である。また、林野率は73%と、県全体の74%とほぼ同等である。



田・畑…令和3年農林水産省統計部「耕地面積調査」
 林野・その他・計…令和2年度（令和元年度版）鳥取県林業統計

2 耕地面積

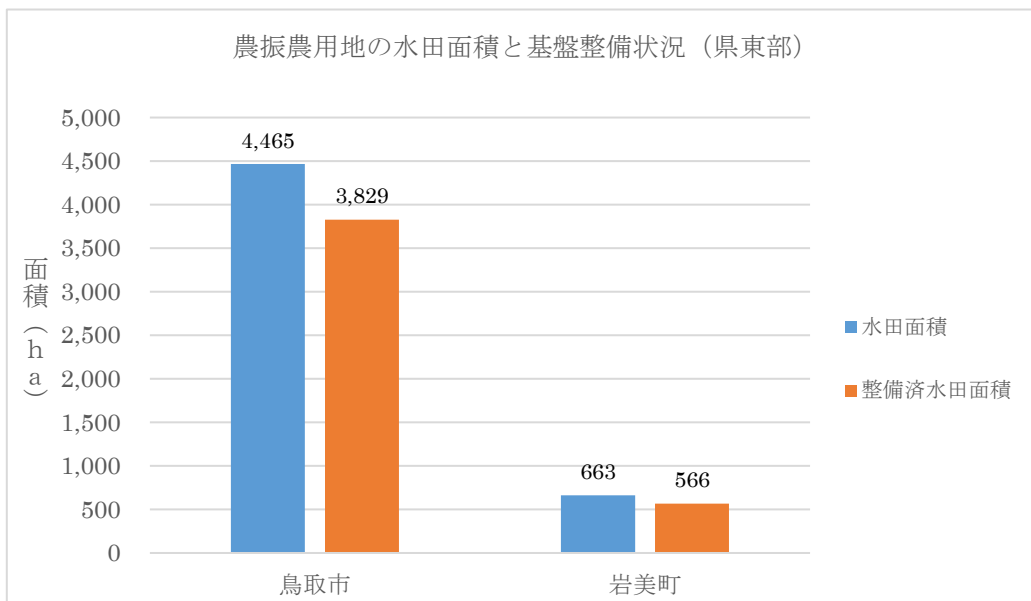
県東部の耕地面積（水田+畑 畦畔含む）は、7,687ha で県全体の 22.5%を占める。



令和3年農林水産省統計部「耕地面積調査」

3 農業基盤の整備状況

県東部の水田整備率は、鳥取市 85.8%、岩美町 85.3%である（鳥取県平均 85.7%）。

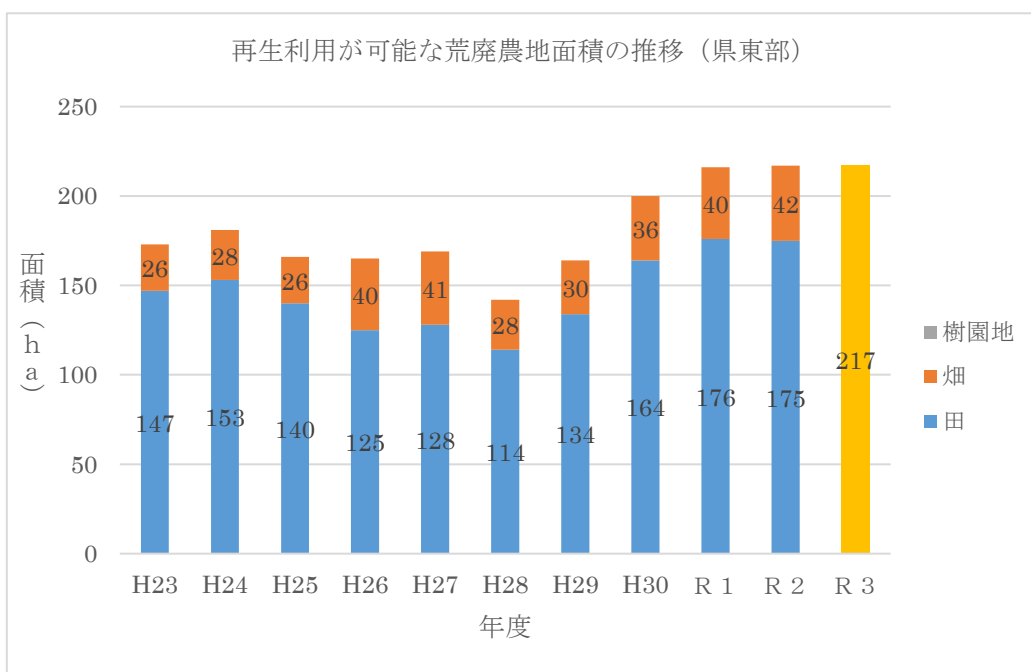


令和3年度までの整備済面積（見込）

鳥取県農地・水保全課調べ

4 荒廃農地の状況

荒廃農地面積は増加傾向にあり、令和2年度時点で217haとなっている。内訳は、水田が176haと80.6%を占め、残りは畑の42ha（19.4%）となっている。

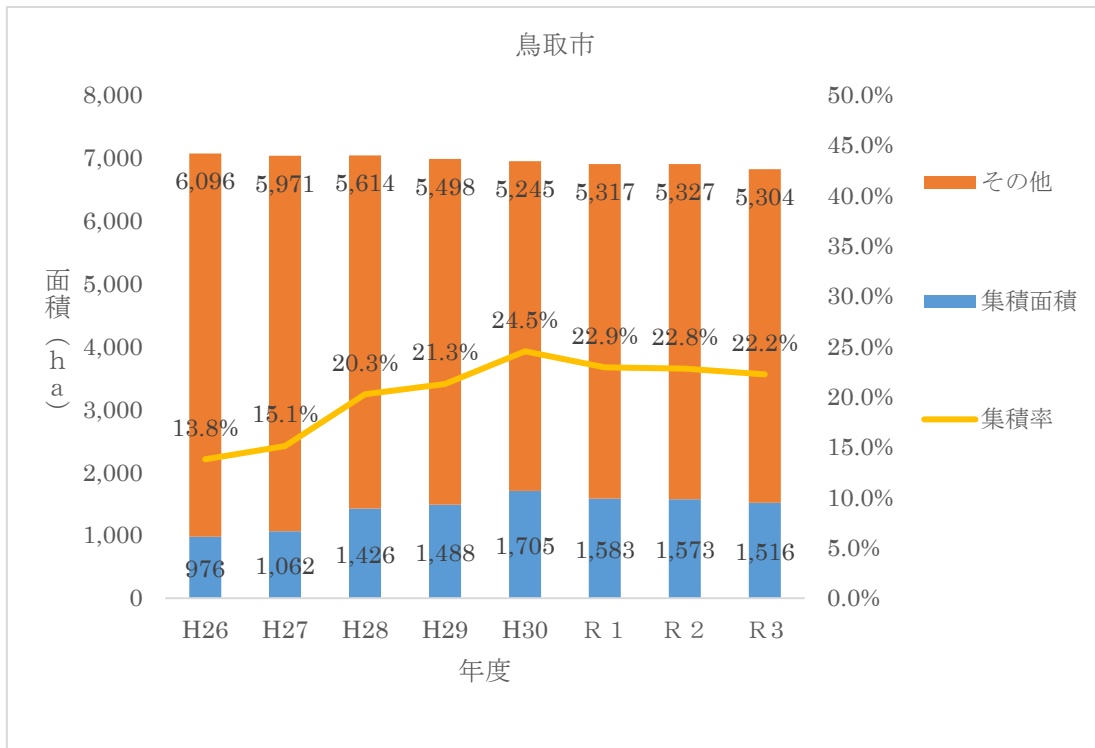


各年度荒廃農地の発生・解消状況に関する調査(農林水産省)

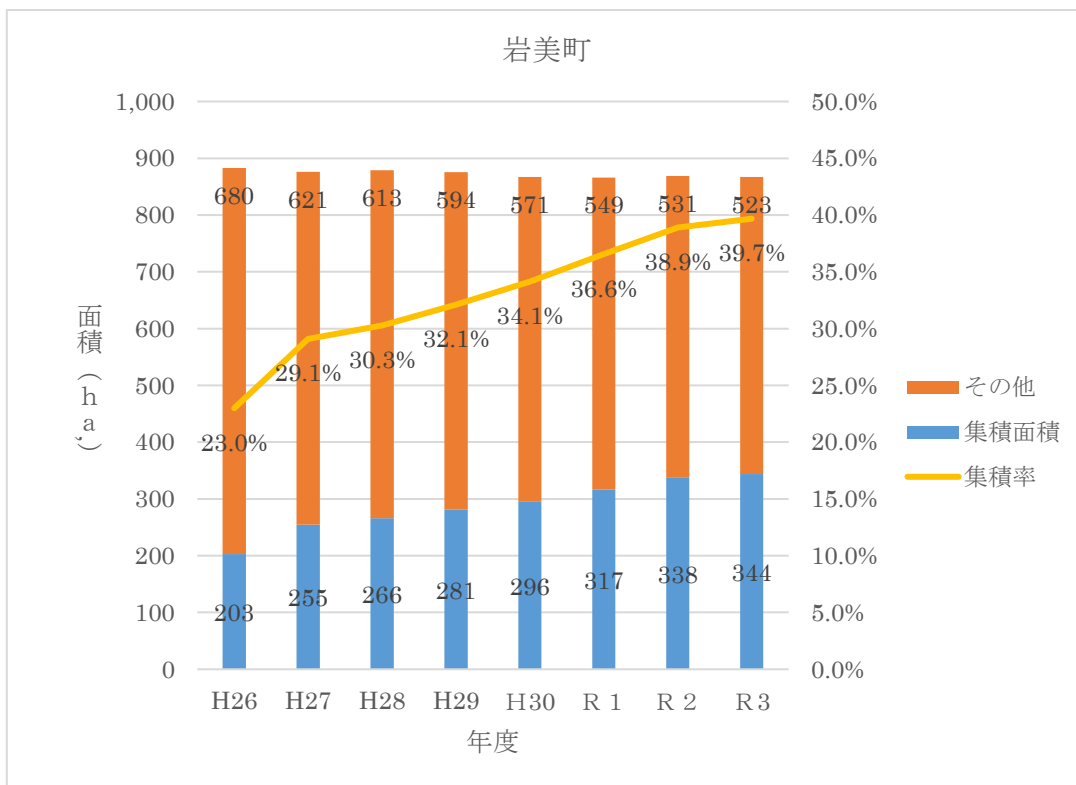
※令和3年度から調査方法が変更になり、田、畑、樹園地の分類がなくなりました。

5 担い手への集積農地面積の動向

令和3年度の集積率は、鳥取市22.2%と前年度から微減し、岩美町は39.7%と年々上昇している。



資料：担い手の農地利用集積状況調査（H26～R3）

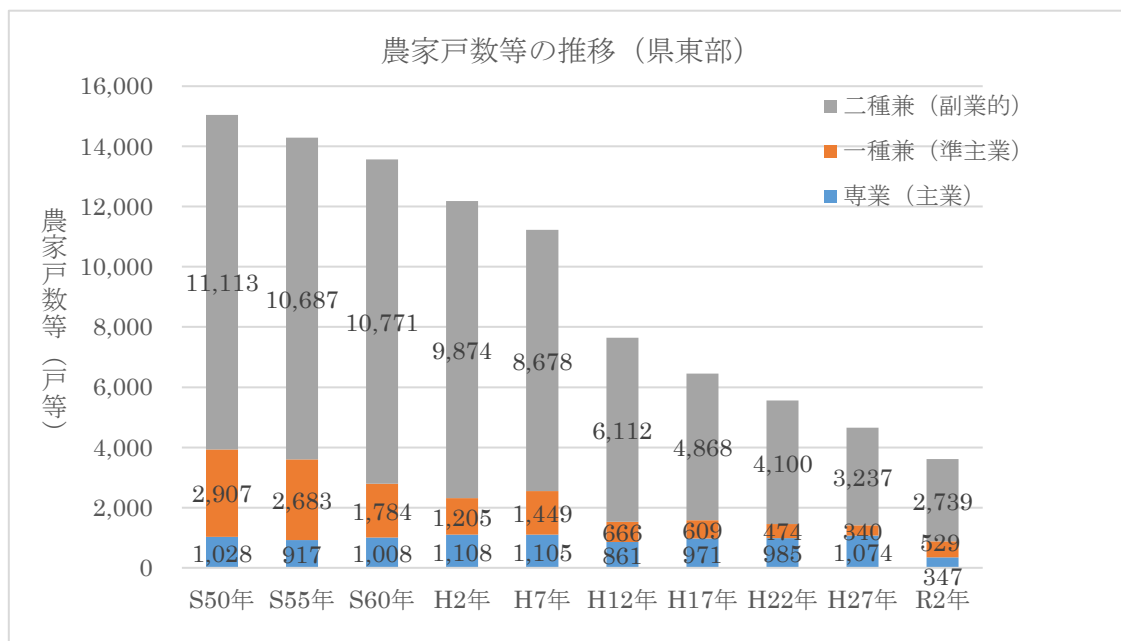


資料：担い手の農地利用集積状況調査（H26～R3）

Ⅲ 農家・農業者の状況

1 農家戸数

鳥取県東部の農家戸数は年々減少している。なお、令和2年(2020年)の農林業センサスから専業、兼業の調査項目が削除され、個人経営体について主業経営体、準主業経営体、副業的経営体に分類する調査項目になった。



世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報、2020年農林業センサス

(注1) 専業農家：世帯員のうちに、自営農業以外の兼業従事者が一人もいない農家をいう。

第1種兼業農家：農業と兼業とを比べて、農業所得を主としている兼業農家をいう。

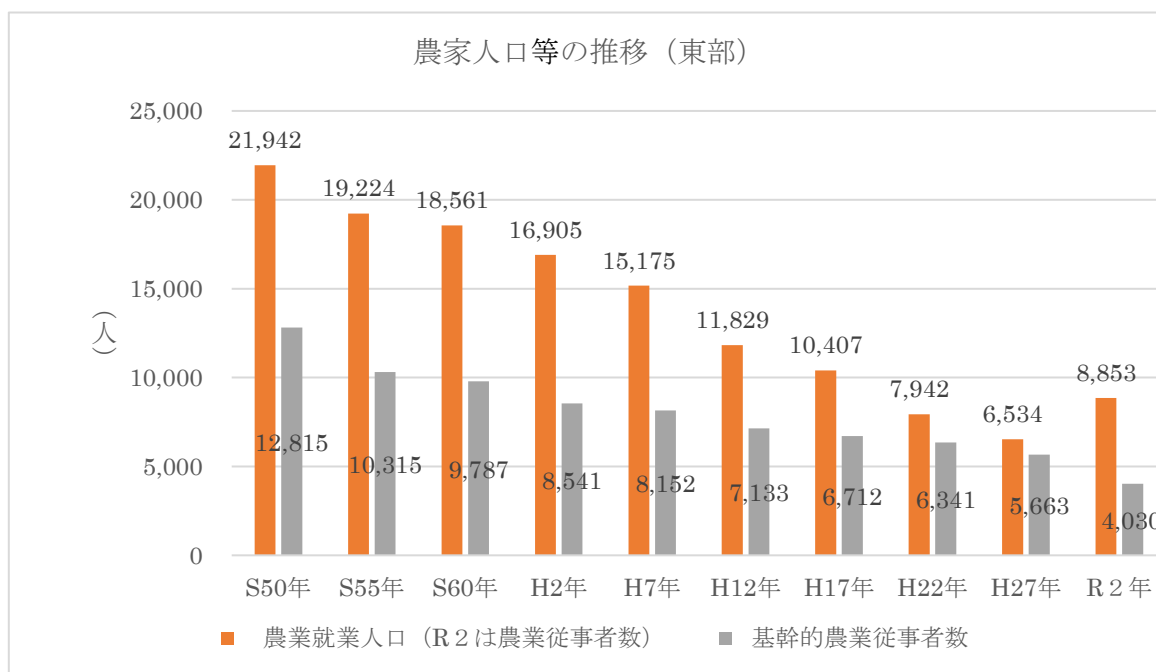
第2種兼業農家：農業と兼業とを比べて、農業所得を従としている兼業農家をいう。

(注2) 用語の説明 (2020年農林業センサスより)

- 『主業経営体』：農業所得が主 (世帯所得の50%以上が農業所得) で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。
- 『準主業経営体』：農業所得が主 (世帯所得の50%未満が農業所得) で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。
- 『副業的経営体』：調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体及び準主業経営体以外の個人経営体をいう。

2 農業者数等

2020年農林業センサスでは、農業就業人口の調査項目が削減された。代わって農業従事者（自営農業に従事した世帯員数）（個人経営体）が調査項目となった。また、基幹的農業従事者数について「基幹的農業従事者数（仕事が主で、主に自営農業に従事した世帯員数）（個人経営体）」が調査項目となった。

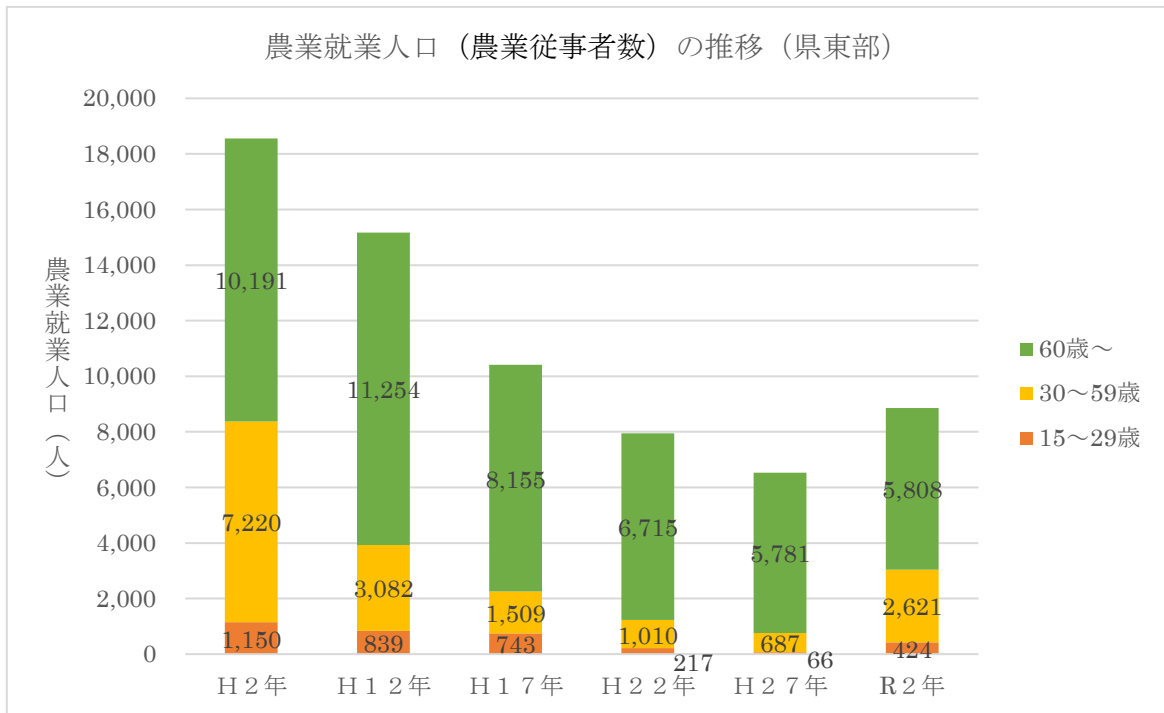


世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報、2020年農林業センサス

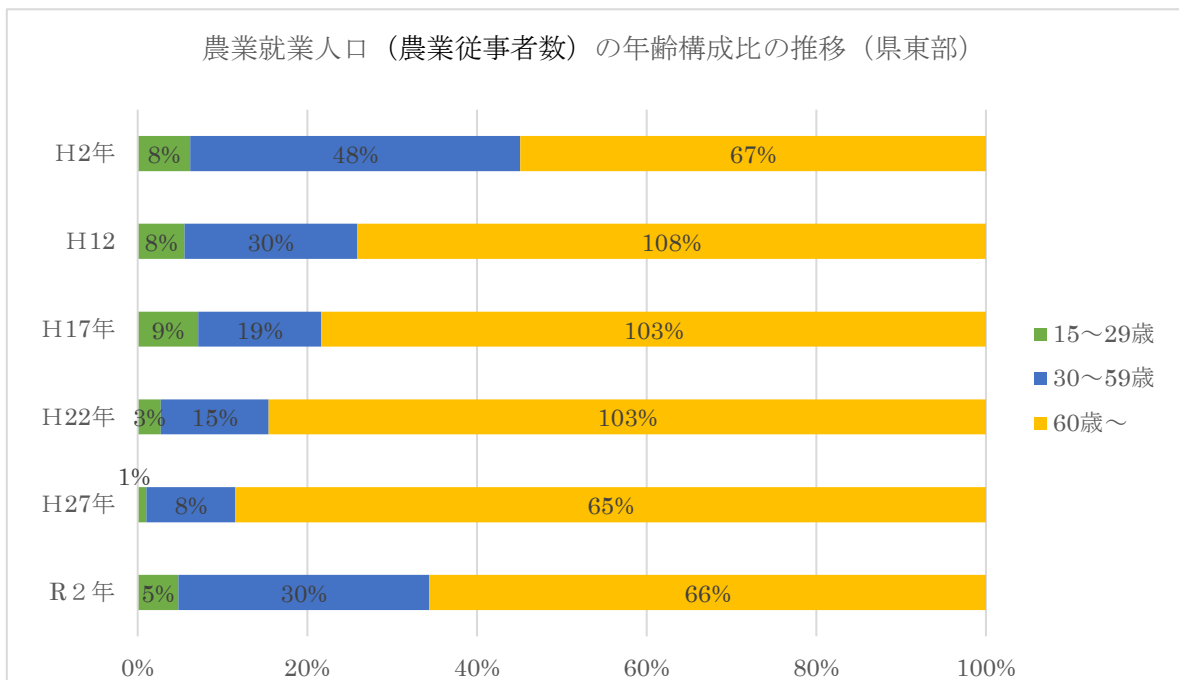
- (注1) 農業就業人口：「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」のことをいう（15才以上）。
- (注2) 農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、調査期日前1年間に自営農業に従事した者をいう。
- (注3) 基幹的農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事した者をいう。R2は、基幹的農業従事者数（仕事が主で、主に自営農業に従事した世帯員数）（個人経営体）。

3 農業者年齢

2020年農林業センサスでは、農業就業人口の調査項目が削減された。代わって農業従事者（自営農業に従事した世帯員数）（個人経営体）が調査項目となった。



世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報、2020年農林業センサス

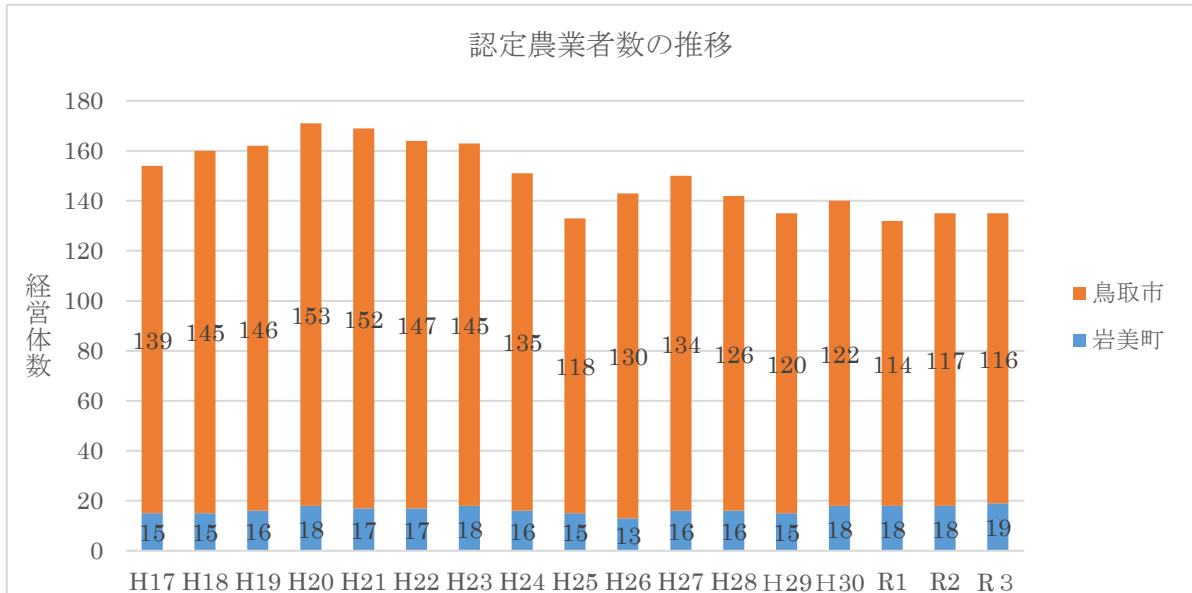


世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報、2020年農林業センサス

4 認定農業者数

県東部の認定農業者数は平成 20 年度の 171 経営体をピークに減少傾向にあり、平成 26 年度以降増加と減少を繰り返しており令和 3 年度は前年度から同数の 135 だった。

法人の認定農業者数は増加傾向が続いており、平成 17 年度の 18 経営体から令和 2 年度の 59 経営体へと 41 経営体増加した。

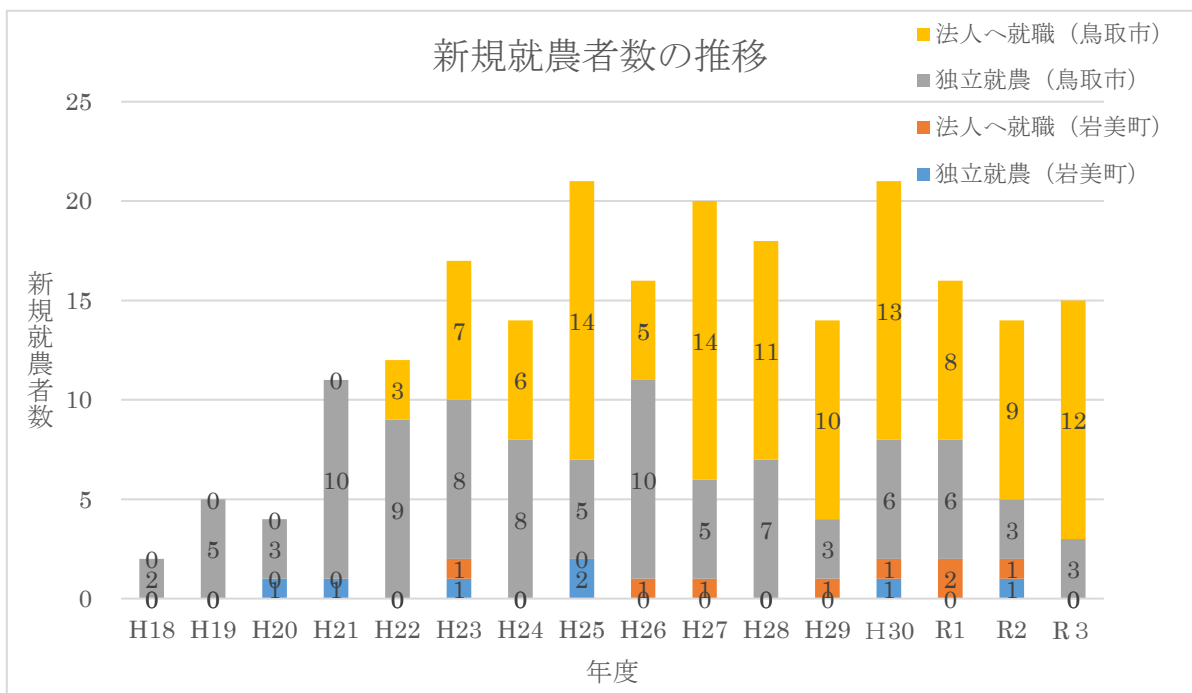


鳥取市、岩美町調べ(各年度末時点数値)

5 新規就農者数

平成 21 年以降、全県的に農の雇用事業の活用等により、新規就農者が増加している。

令和 3 年の新規就農者数は 15 名（鳥取市が 15 名）となっている。そのうち、法人等への就職者は 12 名（鳥取市）、独立自営就農者は 3 名（鳥取市）となっている。



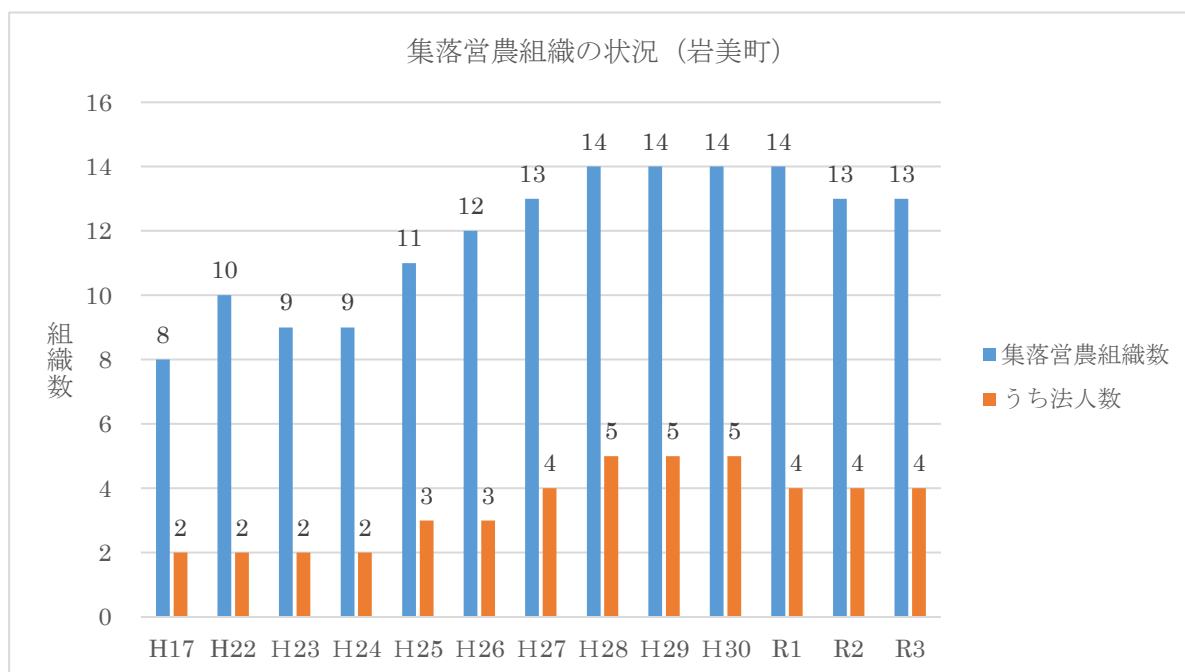
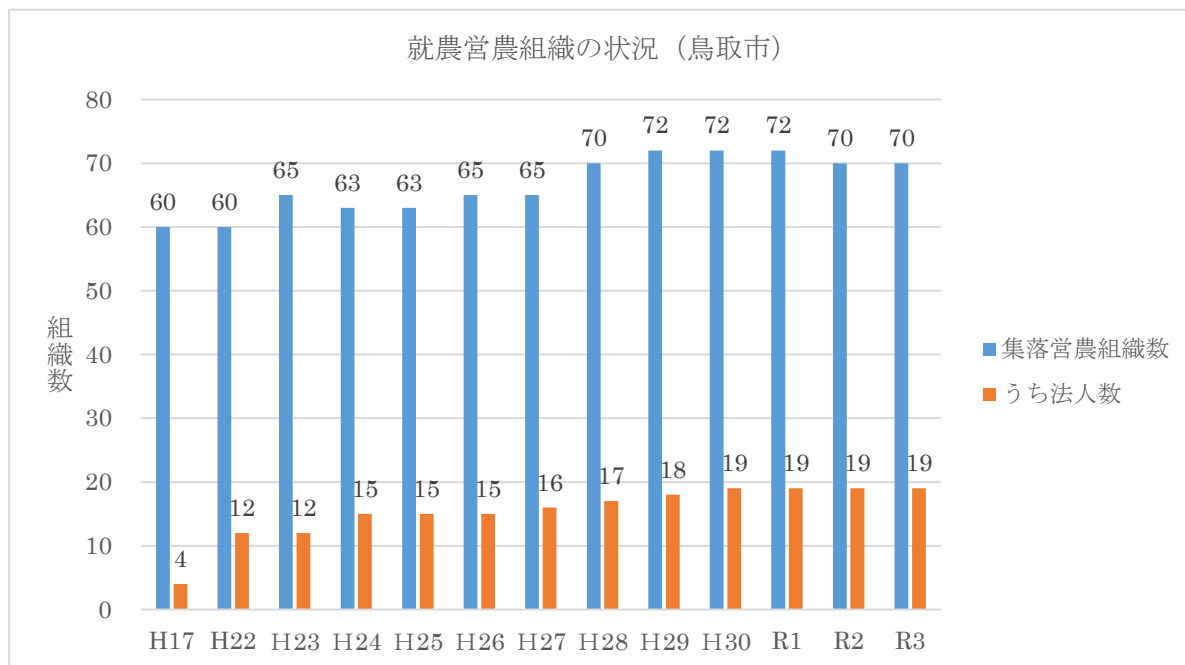
*鳥取県経営支援課調べ (暦年集計)

*法人への就職者数は平成 21 年度以前の調査データなし

6 集落営農組織数

県東部の集落営農組織数は近年横ばい傾向にある。

令和3年集落営農組織数は83（うち、鳥取市70、岩美町13）で、法人数は23（うち、鳥取市19、岩美町4）となっている。

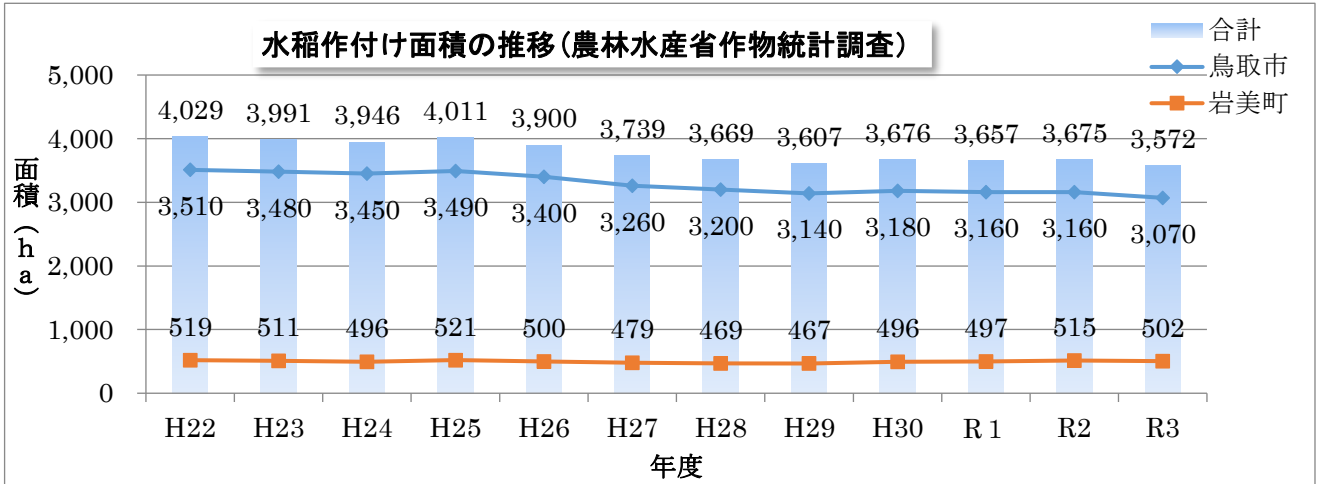


IV 主な農畜産物の生産、販売状況 (※出典記載が無い場合はJA 鳥取いなば調べ)

1 水稲

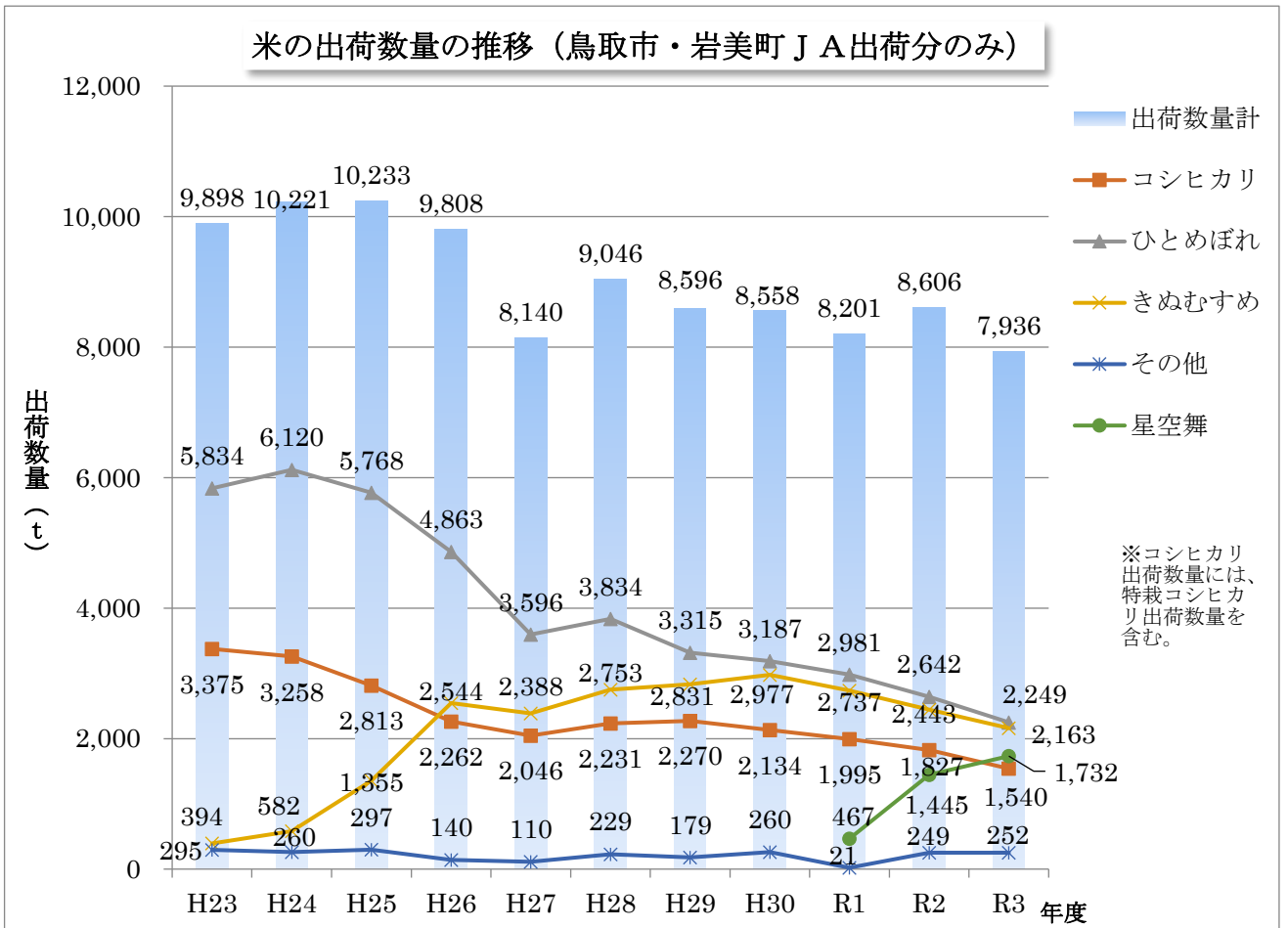
(1) 作付面積

令和3年度作付面積は令和2年度に比べ103ha減少した。



(2) 出荷数量 (JA出荷分のみ)

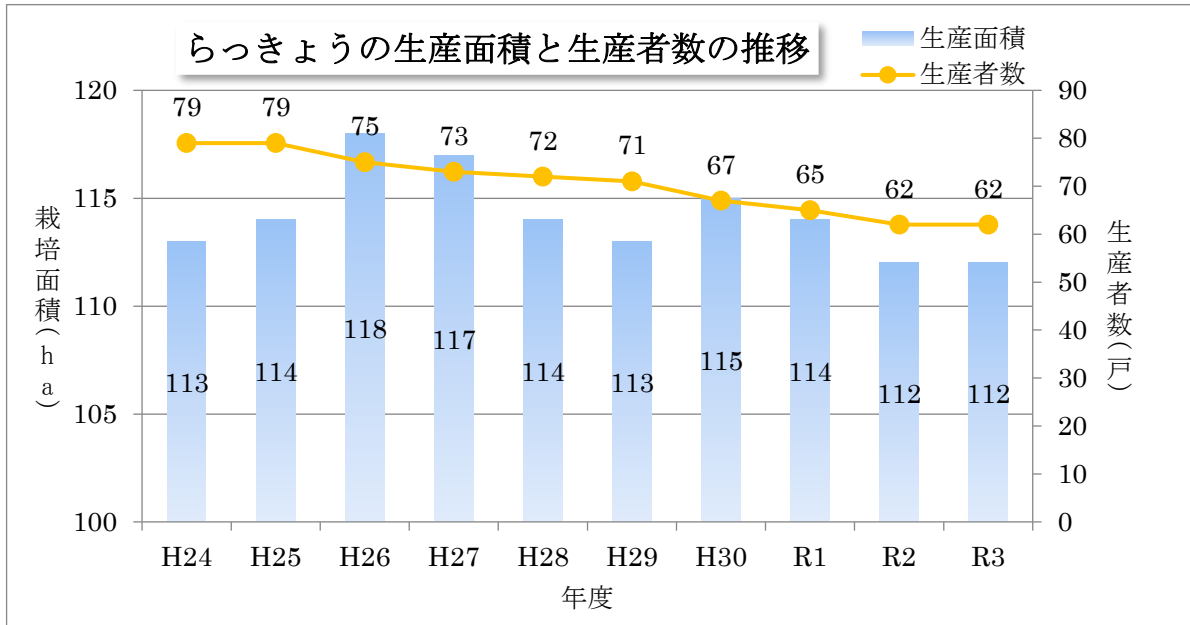
令和3年度は星空舞が増加し、それに応じて、コシヒカリなどの主要品種が減少した。またJAへの出荷量は前年より670t減少した。



2 らっきょう

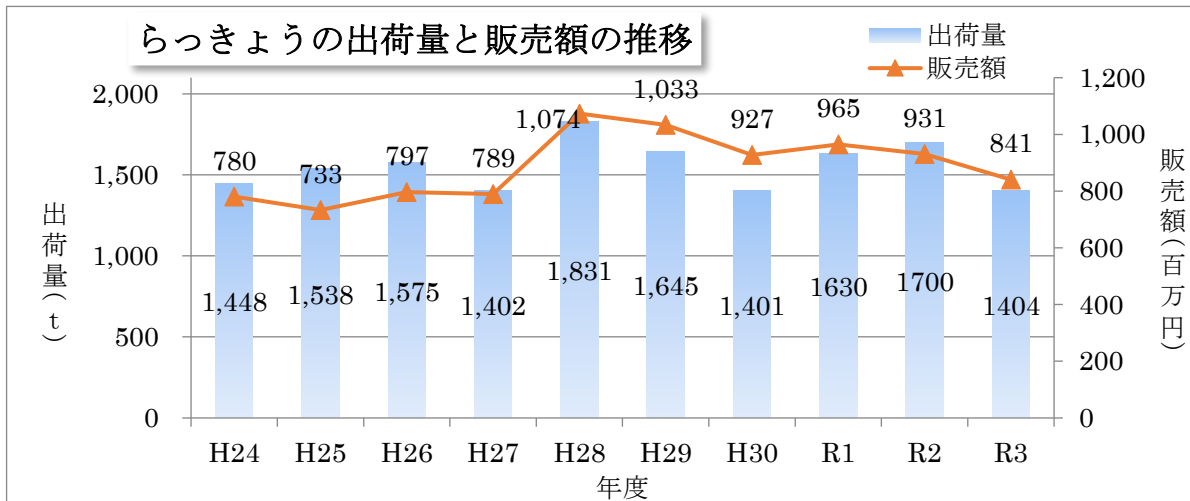
(1) 栽培面積・生産者数

- ①鳥取市福部町で生産されている「砂丘らっきょう」は、県内の面積の約6割を占める。
 ②生産者数は年々減少しており、令和3年度の生産者は10年前より3割程度減少しているが、面積は110ha以上を確保し1戸当たりの栽培面積は増えている。



(2) 出荷量・販売金額

令和3年産福部らっきょうの出荷量は豊作だった前年に比べて83%の1,404 t、販売額は8億4千1百万円であった。



(3) トピックス

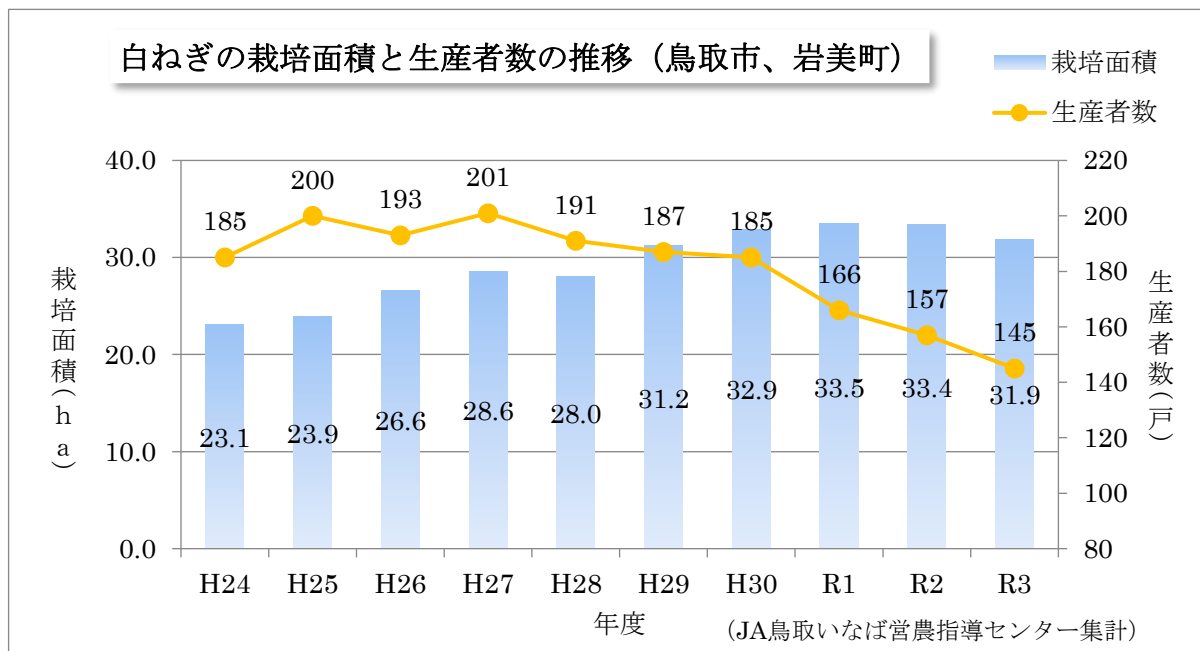
平成28年3月に農林水産省より、鳥取市福部町内の鳥取砂丘に隣接した砂丘畑で生産したらっきょうを「鳥取砂丘らっきょう」、「ふくべ砂丘らっきょう」として国内で11件目の地理的表示 (GI) 登録された。また、国の産地パワーアップ事業を活用してらっきょうの加工施設が平成30年2月に竣工した。令和元年度産地消費等優良活動表彰の表彰者が発表され、鳥取いなば農業協同組合福部らっきょう生産組合の活動が生産部門の農林水産大臣賞を受賞した。

3 白ねぎ

(1) 栽培面積・生産者数

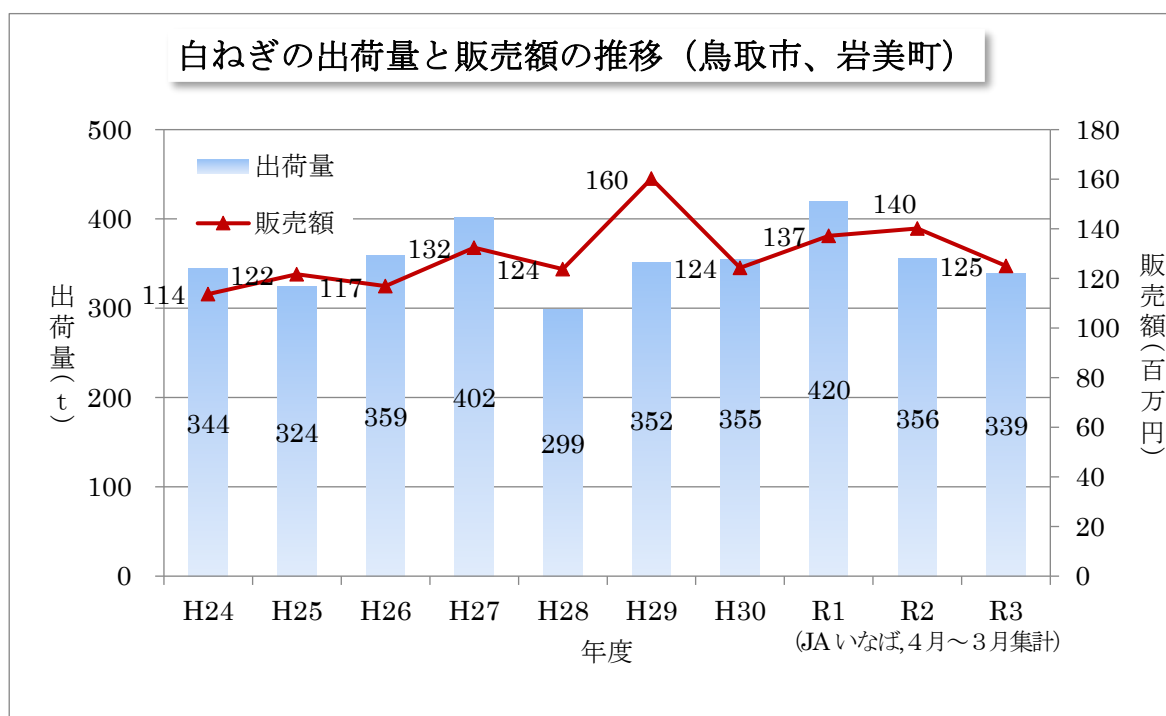
近年、生産者数は減少しているが、一戸当たりの規模拡大が進み令和3年度の面積は 31.9ha であった。

※平成 25 年度から「JA 鳥取いなば白ねぎ倍増プラン」を作成して事業に取り組み、育苗ハウスの増棟や移植機等の機械リースを実施中である。(令和元年度から JA の生産者数の集計方法が異なる)



(2) 出荷量・販売金額

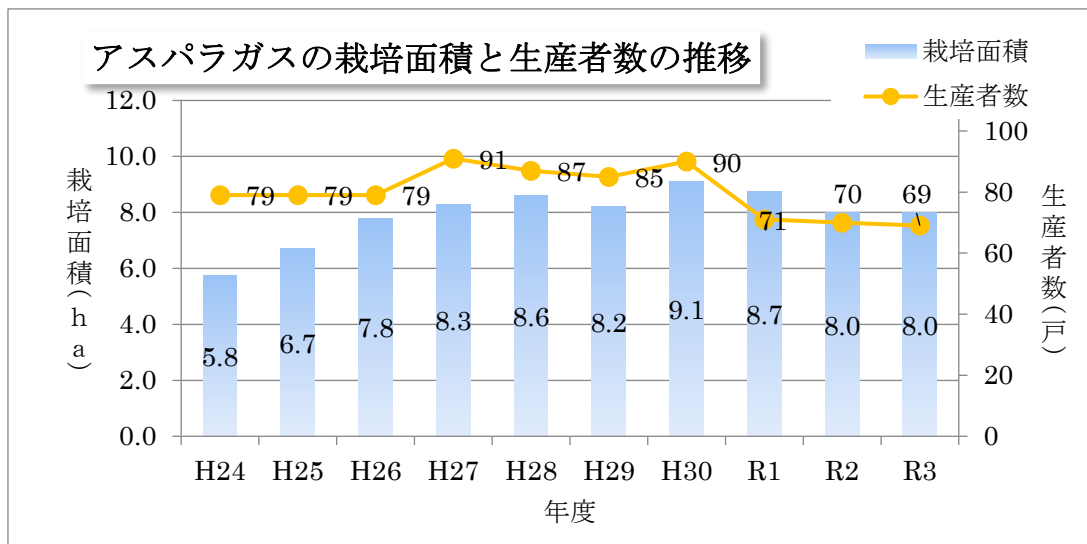
令和3年度は、前年度に比べて出荷量はほぼ同等の 339 t、販売額は減少し 125 百万円であった。



4 アスパラガス

(1) 栽培面積・生産者数（八頭管内含む）

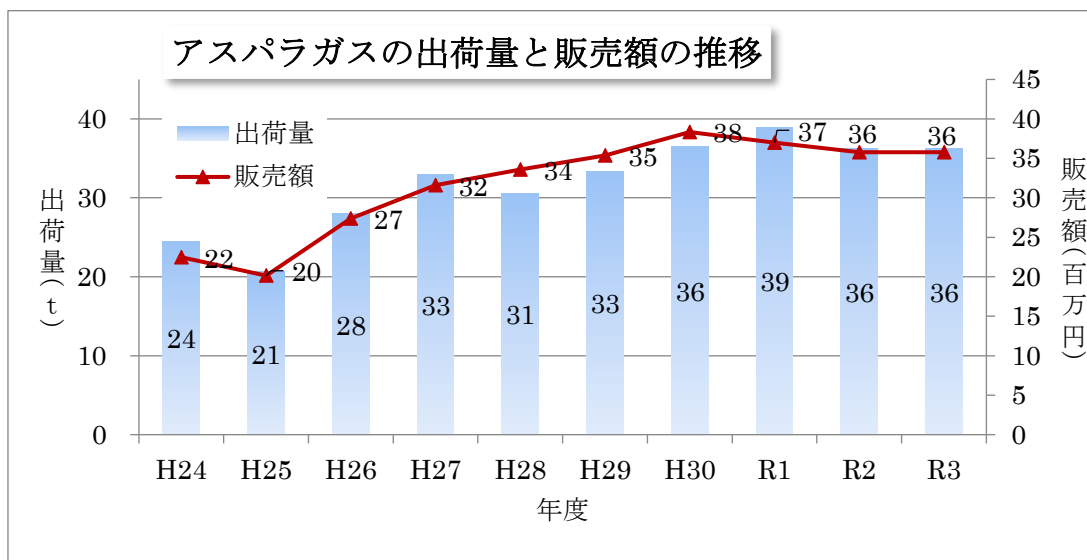
栽培面積は平成 22 年度以降、ほぼ毎年増加していたが、令和元年度以降は生産者数が減少し、令和 3 年度の面積は前年と同じ 8.0ha であった。（令和元年度から JA の生産者数の集計方法が異なる）



(JA 鳥取いなば営農指導センター集計)

(2) 出荷量・販売金額（八頭管内含む）

出荷量、販売額ともに、平成 26 年度以降ほぼ毎年増加し、令和 3 年度は出荷量 36t、販売額 36 百万円となった。



(JA 鳥取いなば営農指導センター集計)

(3) トピックス

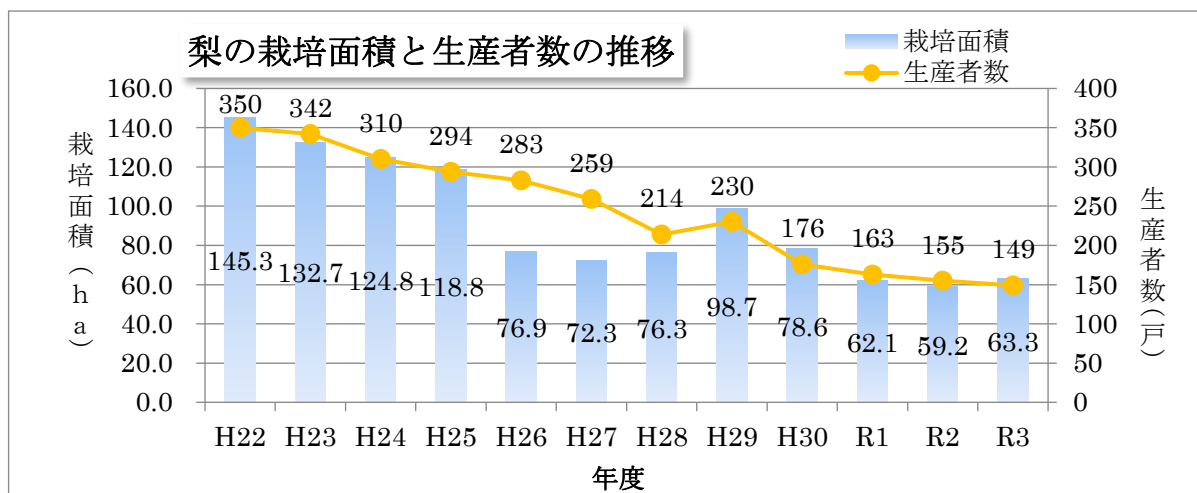
らっきょう、白ねぎに次ぐ特産品としてアスパラガスを育成するため、平成 28 年 2 月に「JA 鳥取いなばアスパラガス振興プラン」を策定し、JA、市町、県とで連携して生産推進を図っている。

令和元年度から産地パワーアップ事業（鳥取型低コストハウスによる施設園芸等推進事業）を活用して、2条雨よけハウス導入による産地形成を目指している。

5 梨

(1) 栽培面積・生産者数(鳥取市、岩美町)

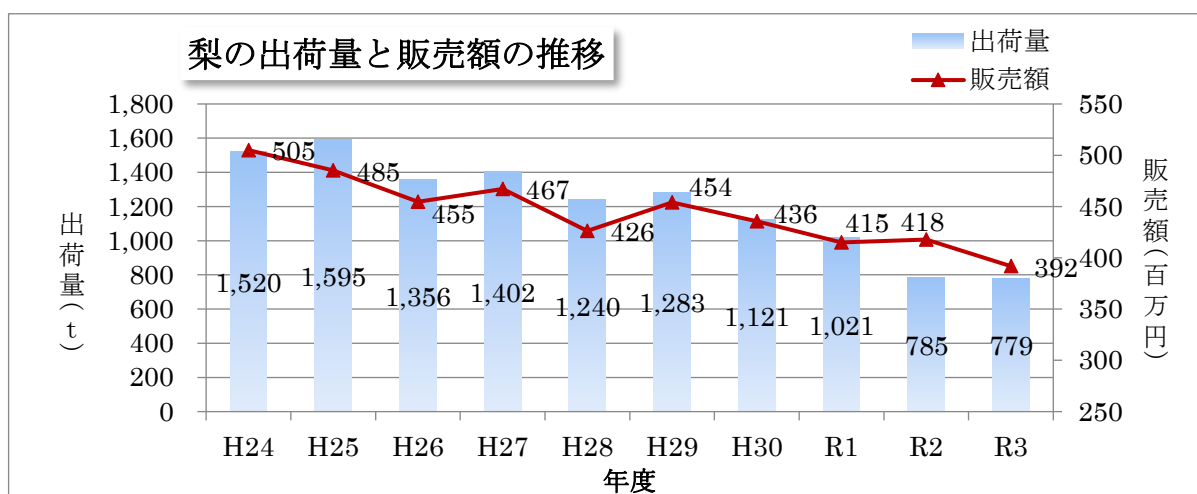
生産者数は依然として減少傾向が続いているものの、令和3年度の栽培面積は対前年比107%とやや増加した。(平成29年度のみ集計方法が異なり、JA福部支店の系統外出荷が含まれている)



(JA鳥取いなば集計)

(2) 出荷量・販売金額(鳥取市、岩美町)

出荷量、販売金額ともに減少傾向である中、令和3年度はさらに追い打ちをかけるように、春先の霜害や台風9号による落果により出荷量、販売金額ともに減少した。



(JA鳥取いなば集計)

(3) トピックス

現在、「二十世紀」が主流であるが、「新甘泉」を中心にジョイント栽培等による新品種の導入が進んでいる。

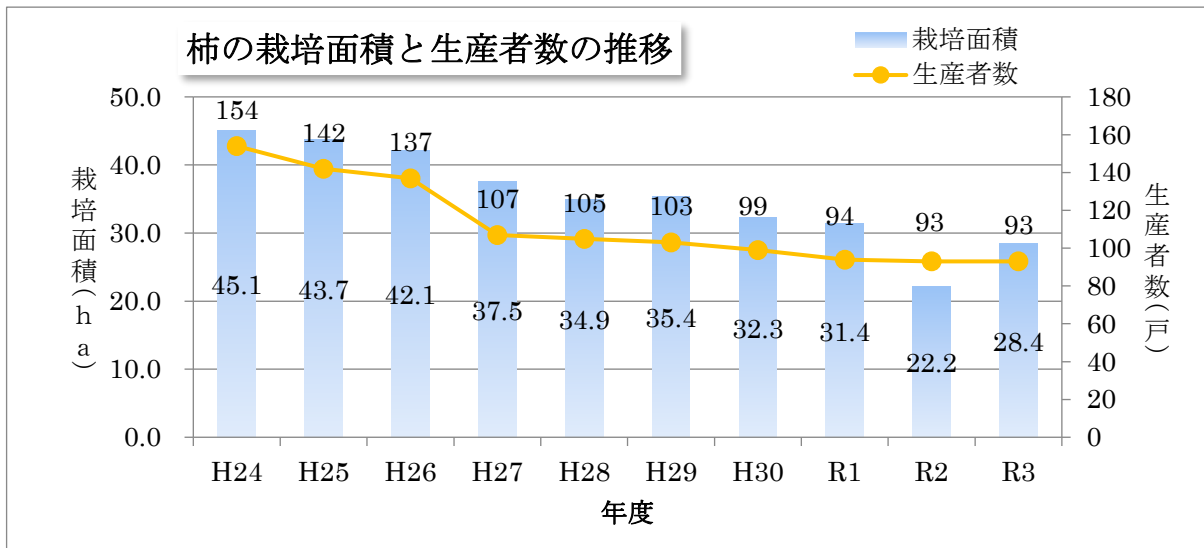
	H18～ H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	合計
新品種 苗木本数	8,030	682	657	1,898	709	447	196	628	13,247
うち新甘泉	4,818	521	561	1,771	635	414	159	594	9,475

※JA鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

6 柿

(1) 栽培面積・生産者数

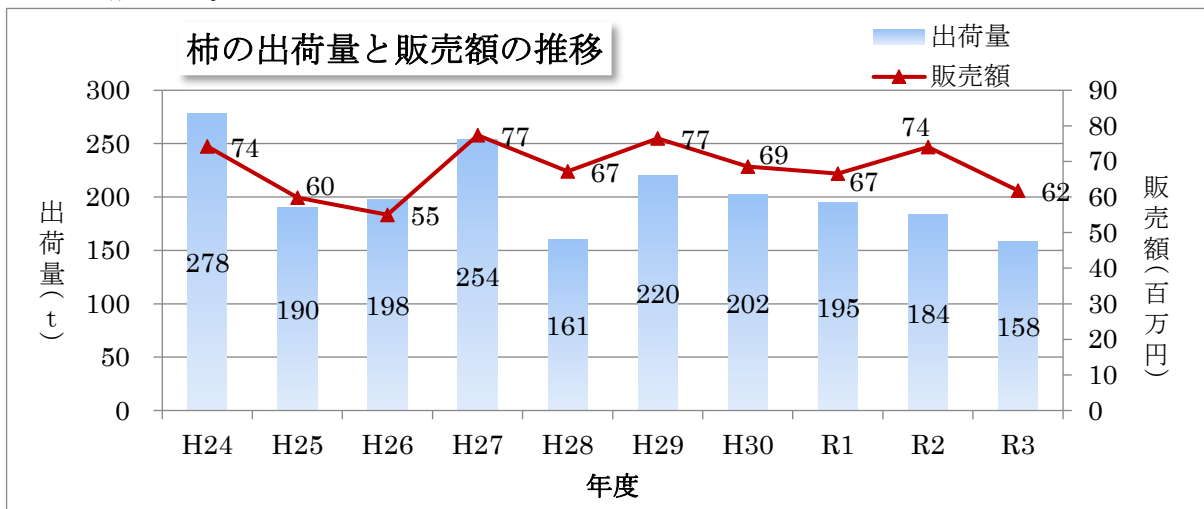
令和3年度の生産者数は前年度と同等であったが、栽培面積は対前年比128%と大幅に増加した。



(JA 鳥取いなば集計)

(2) 出荷量・販売金額

令和3年度は、春先の霜害や果実の軟化、また「富有」を中心に炭疽病が多発し出荷量、販売額ともに減少した。



(JA 鳥取いなば集計)

(3) トピックス

現在、「富有」、「西条」が中心であるが、収量、品質、販売単価の高い新品種「輝太郎」の植栽を進めている。

	H21~H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	合計
輝太郎 苗木本数 (本)	3,196	713	502	562	431	382	273	259	6,318

※JA 鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

7 乳用牛

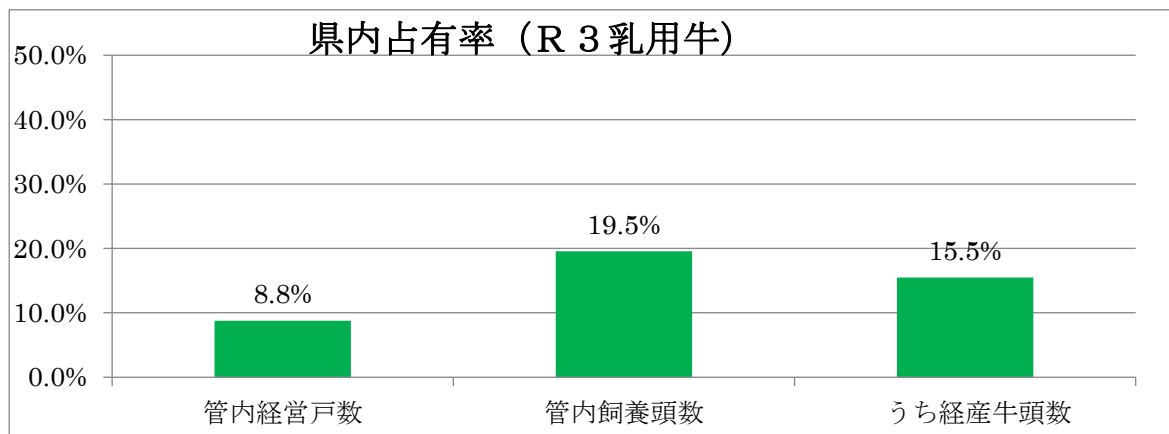
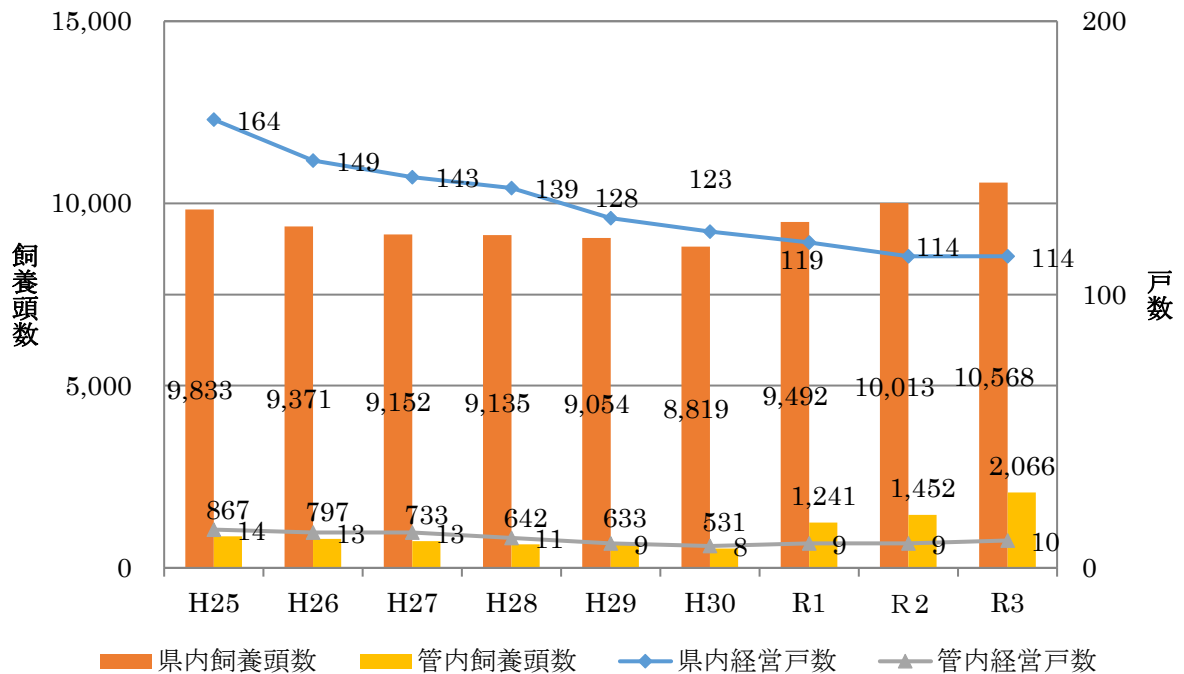
酪農経営においては、メガファームの開設により管内飼養頭数が 614 頭増加し、全県に占める割合は 19.5%(14.5%)になった。(括弧内は令和2年度実績)

乳用牛

(単位:戸、頭、%)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	前年比	県内占有率
管内経営戸数	14	13	13	11	9	8	9	9	10	111.1%	8.8%
管内飼養頭数	867	797	733	642	633	531	1,241	1,452	2,066	142.3%	19.5%
うち経産牛頭数	602	541	504	436	436	376	976	991	996	100.5%	15.5%
県内経営戸数	164	149	143	139	128	123	119	114	114	100.0%	
県内飼養頭数	9,833	9,371	9,152	9,135	9,054	8,819	9,492	10,013	10,568	105.5%	
うち経産牛頭数	6,623	6,298	6,144	6,063	5,936	5,877	6,331	6,418	6,439	100.3%	

資料：鳥取県畜産課調べ。 ※「管内」は、鳥取市及び岩美町

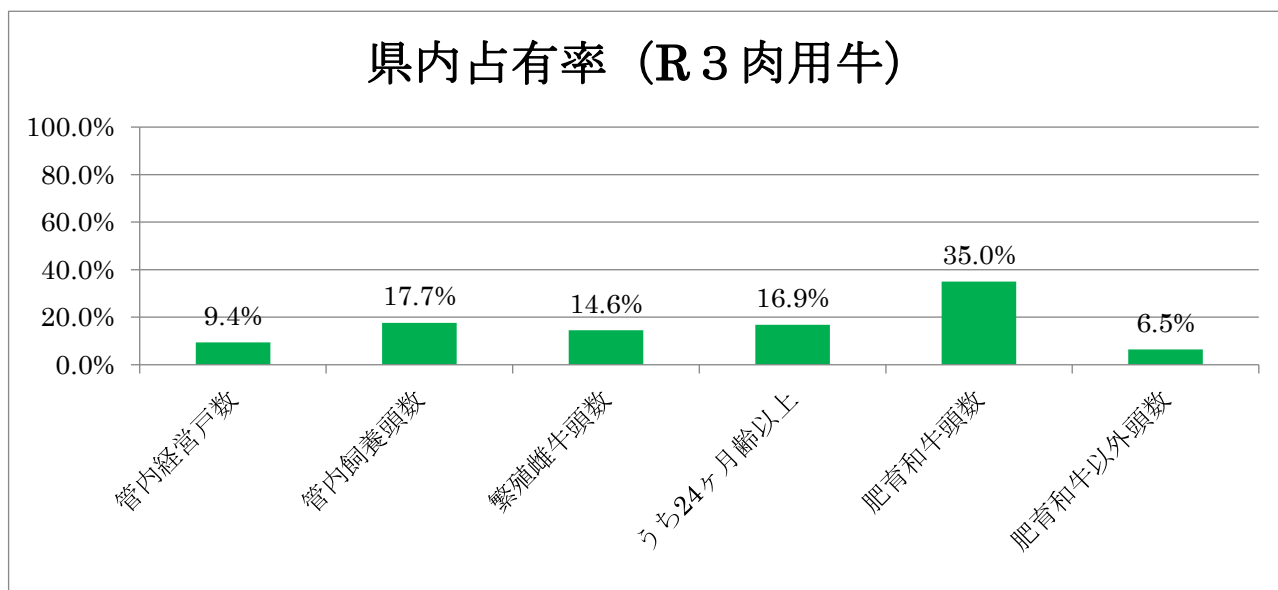
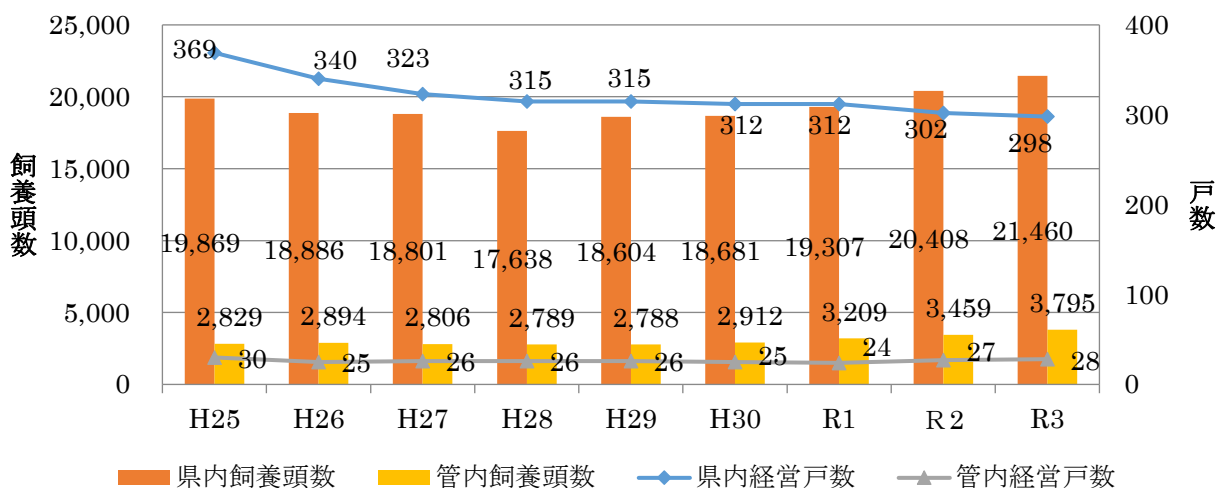


8 肉用牛

経営戸数は全県では4戸減少し298戸、管内は1戸増加し28戸となった。飼養頭数は、全県で1052頭増えて21,460頭(20,408頭)、管内は336頭増えて3,795頭(3,459頭)。繁殖雌牛頭数は近年県内で増加傾向にあり、534頭増加し6,307頭(5,773頭)、管内も302頭増え918頭(616頭)。(括弧内は令和2年度実績)

肉用牛										(単位:戸、頭、%)	
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	前年比	県内占有率
管内経営戸数	30	25	26	26	26	25	24	27	28	103.7%	9.4%
管内飼養頭数	2,829	2,894	2,806	2,789	2,788	2,912	3,209	3,459	3,795	109.7%	17.7%
繁殖雌牛頭数	353	359	329	377	376	473	476	616	918	149.0%	14.6%
うち24ヶ月齢以上	250	288	273	264	263	338	326	400	714	178.5%	16.9%
肥育和牛頭数	1,854	2,024	1,849	1,832	1,832	1,934	2,237	2,292	2,325	101.4%	35.0%
肥育和牛以外頭数	622	511	628	580	580	505	496	551	552	100.2%	6.5%
県内経営戸数	369	340	323	315	315	312	312	302	298	98.7%	
県内飼養頭数	19,869	18,886	18,801	17,638	18,604	18,681	19,307	20,408	21,460	105.2%	
繁殖雌牛頭数	4,246	3,981	4,062	4,326	4,458	4,982	5,277	5,773	6,307	109.2%	
うち24ヶ月齢以上	2,559	2,452	2,592	2,648	2,698	3,072	3,323	3,644	4,234	116.2%	
肥育和牛頭数	6,626	6,570	5,991	5,753	6,339	6,220	6,463	6,581	6,646	101.1%	
肥育和牛以外頭数	8,997	8,335	8,593	7,559	7,813	7,485	7,567	8,054	8,507	105.6%	

資料:鳥取県畜産課調べ。※「管内」は、鳥取市及び岩美町



9 豚

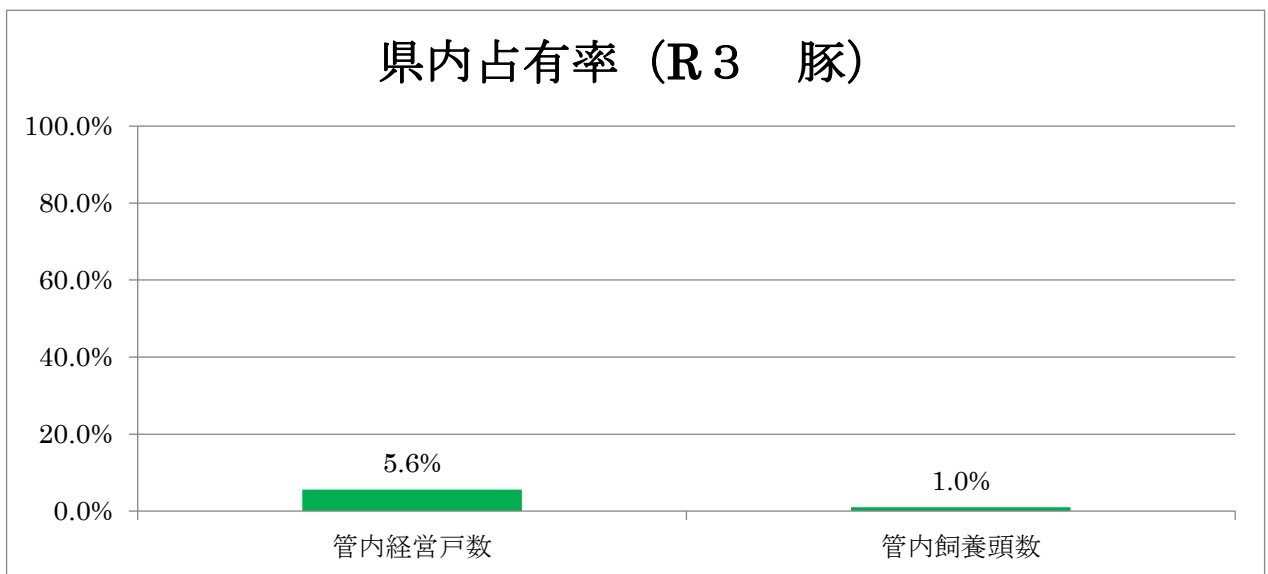
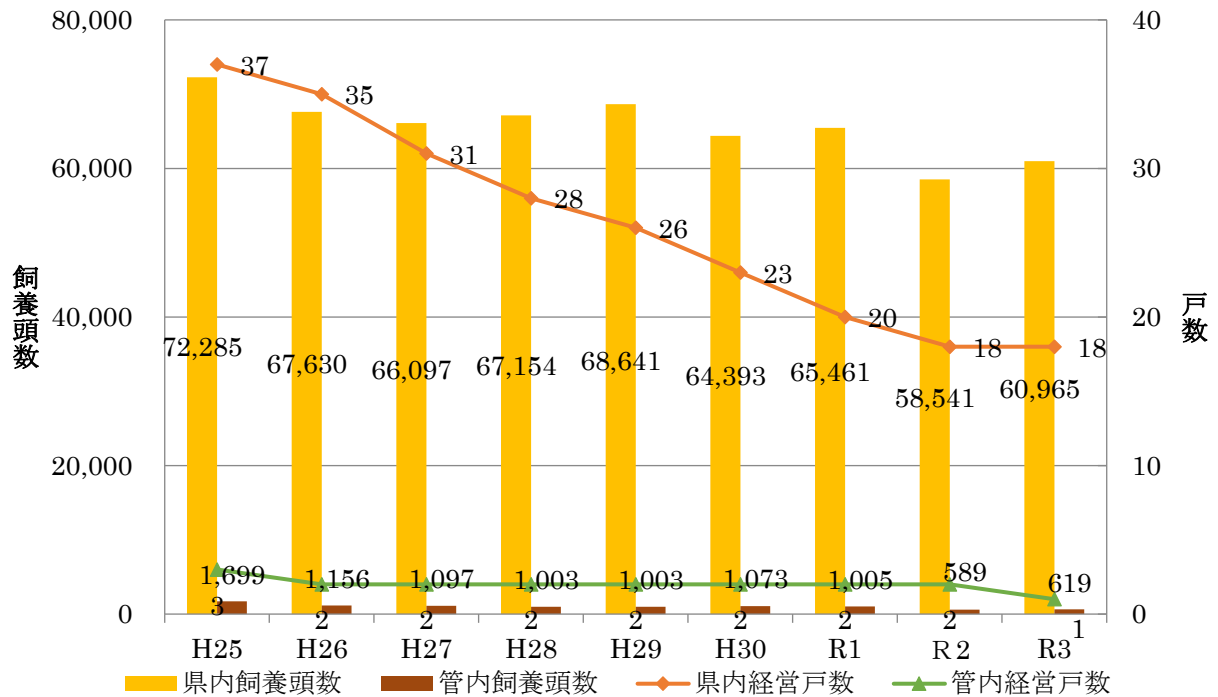
経営戸数は全県で増減なく、飼育頭数は微増。管内戸数は1戸減少し1戸（2戸）、飼養頭数は微増し619頭（589頭）。（括弧内は令和2年度実績）

豚

（単位：戸、頭、%）

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	前年比	県内占有率
管内経営戸数	3	2	2	2	2	2	2	2	1	50.0%	5.6%
管内飼養頭数	1,699	1,156	1,097	1,003	1,003	1,073	1,005	589	619	105.1%	1.0%
県内経営戸数	37	35	31	28	26	23	20	18	18	100.0%	
県内飼養頭数	72,285	67,630	66,097	67,154	68,641	64,393	65,461	58,541	60,965	104.1%	

資料：鳥取県畜産課調べ。 ※「管内」は、鳥取市及び岩美町



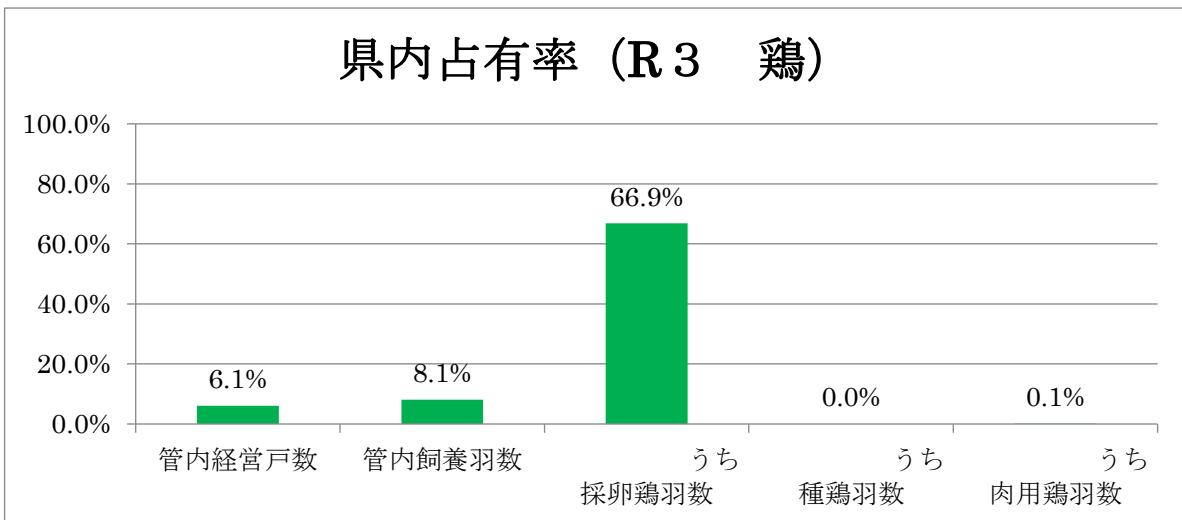
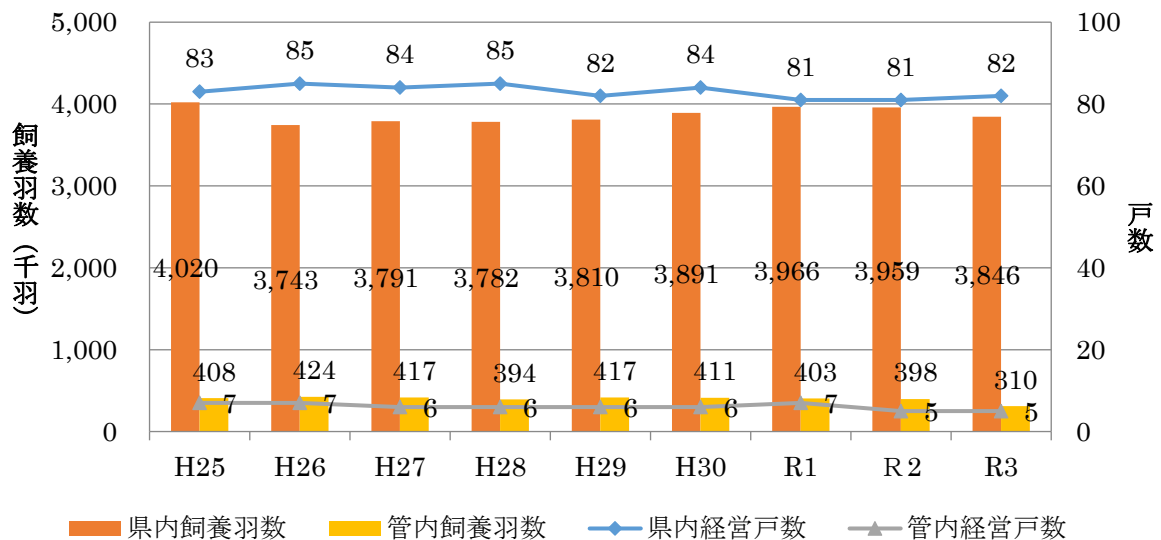
10 鶏

採卵経営においては、全県で増減無く飼養羽数は微減。管内では県内飼養採卵鶏の66.9%弱を占め、大規模経営体が目立つ。戸数は5戸(5戸)で増減ないが、飼養羽数は減少した。

肉用鶏については、全県で2戸増加し、59戸(57戸)であり、飼養羽数は微減。管内は1戸で羽数は微減。(括弧内は令和2年度実績)

鶏 (単位: 戸、羽、%)											
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	前年比	県内占有率
管内経営戸数	7	7	6	6	6	6	7	5	5	100.0%	6.1%
管内飼養羽数	407,811	423,740	416,690	393,899	416,590	410,896	403,043	398,214	309,748	77.8%	8.1%
うち採卵鶏羽数	406,013	420,780	408,690	392,002	414,693	408,417	400,564	395,362	307,245	77.7%	66.9%
うち種鶏羽数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0.0%
うち肉用鶏羽数	1,798	2,960	8,000	1,897	1,897	2,479	2,479	2,852	2,503	87.8%	0.1%
県内経営戸数	83	85	84	85	82	84	81	81	82	101.2%	
県内飼養羽数	4,020,286	3,743,239	3,791,418	3,781,726	3,809,934	3,890,963	3,965,956	3,959,263	3,846,131	97.1%	
うち採卵鶏羽数	599,084	615,799	603,936	589,137	565,052	562,488	560,874	554,543	459,504	82.9%	
うち種鶏羽数	145,597	143,866	143,881	146,639	146,760	147,465	135,769	108,909	98,205	90.2%	
うち肉用鶏羽数	3,275,605	2,983,574	3,043,601	3,045,950	3,098,122	3,181,010	3,269,313	3,295,811	3,288,422	99.8%	

資料：鳥取県畜産課調べ。 ※「管内」は、鳥取市及び岩美町



V 鳥獣害の状況

農作物の被害金額は年により変動があるが、捕獲頭数は主な有害鳥獣であるイノシシ・シカが上位を占めている。令和3年度はイノシシは被害金額・捕獲実績ともに減少したが、シカ、クマは増加しており、今後も農作物被害の増加が懸念される。

1 農産物被害金額とその主な内訳

(単位：千円)

年 度		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
被害額		30,753	18,647	13,006	18,663	31,476	28,447	31,618	23,173	34,615	21,901	36,918	33,013
主な鳥獣種	イノシシ	16,696 (54%)	14,073 (75%)	10,601 (82%)	15,984 (86%)	11,011 (35%)	22,594 (79%)	26,893 (85%)	20,753 (90%)	31,282 (90%)	18,182 (83%)	30,632 (83%)	21,469 (65%)
	シカ	17	88	6	139	346	895	783	1,603	879	975	2,876	3,728
	クマ	3,978	326	1,392	0	15,566	870	2,132	320	1,212	1,132	2,179	7,127
	ヌートリア	76	24	0	55	138	39	148	39	99	22	99	0
	カラス	1,406	3,190	360	1,821	2,469	493	754	458	493	150	522	684

鳥取県鳥獣対策センター調べ

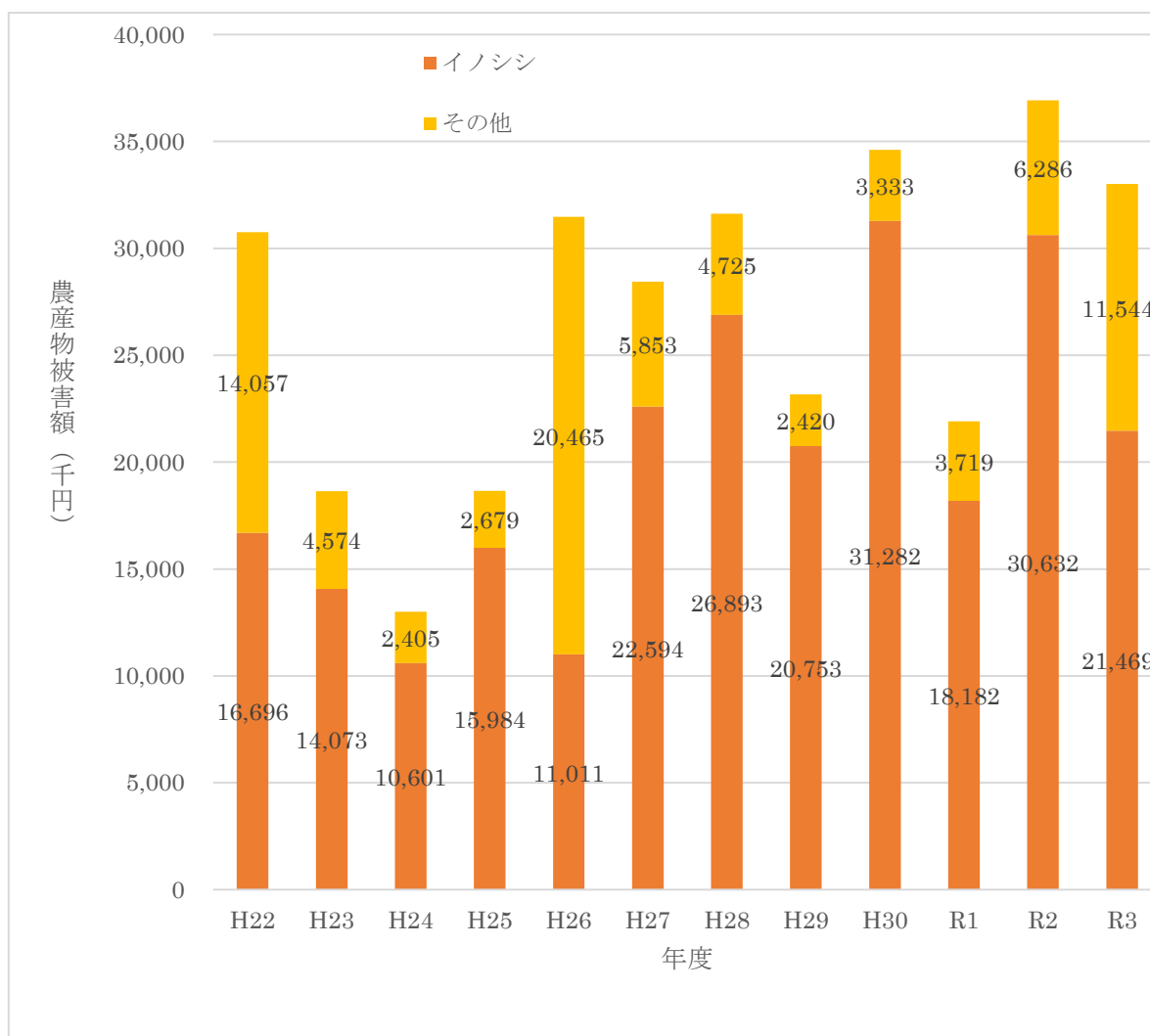


図1 東部管内（鳥取市、岩美町）における野生鳥獣による農産物被害額の推移

2 主な鳥獣の捕獲実績 (捕獲頭数)

(単位:頭、羽)

鳥獣種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	備考
イノシシ	2,092	1,530	1,692	2,080	2,411	2,936	3,788	1,418	3,136	4,331	4,112	3,469	
シカ	481	587	632	800	867	980	828	971	1,576	2,422	2,987	3,365	猟期含む
ヌートリア	1,126	957	641	698	551	369	534	418	193	610	501	429	防除計画での捕獲含む
アライグマ	27	20	16	30	43	17	31	21	22	6	19	16	防除計画での捕獲含む
カラス	639	239	410	355	554	648	393	384	397	460	307	164	

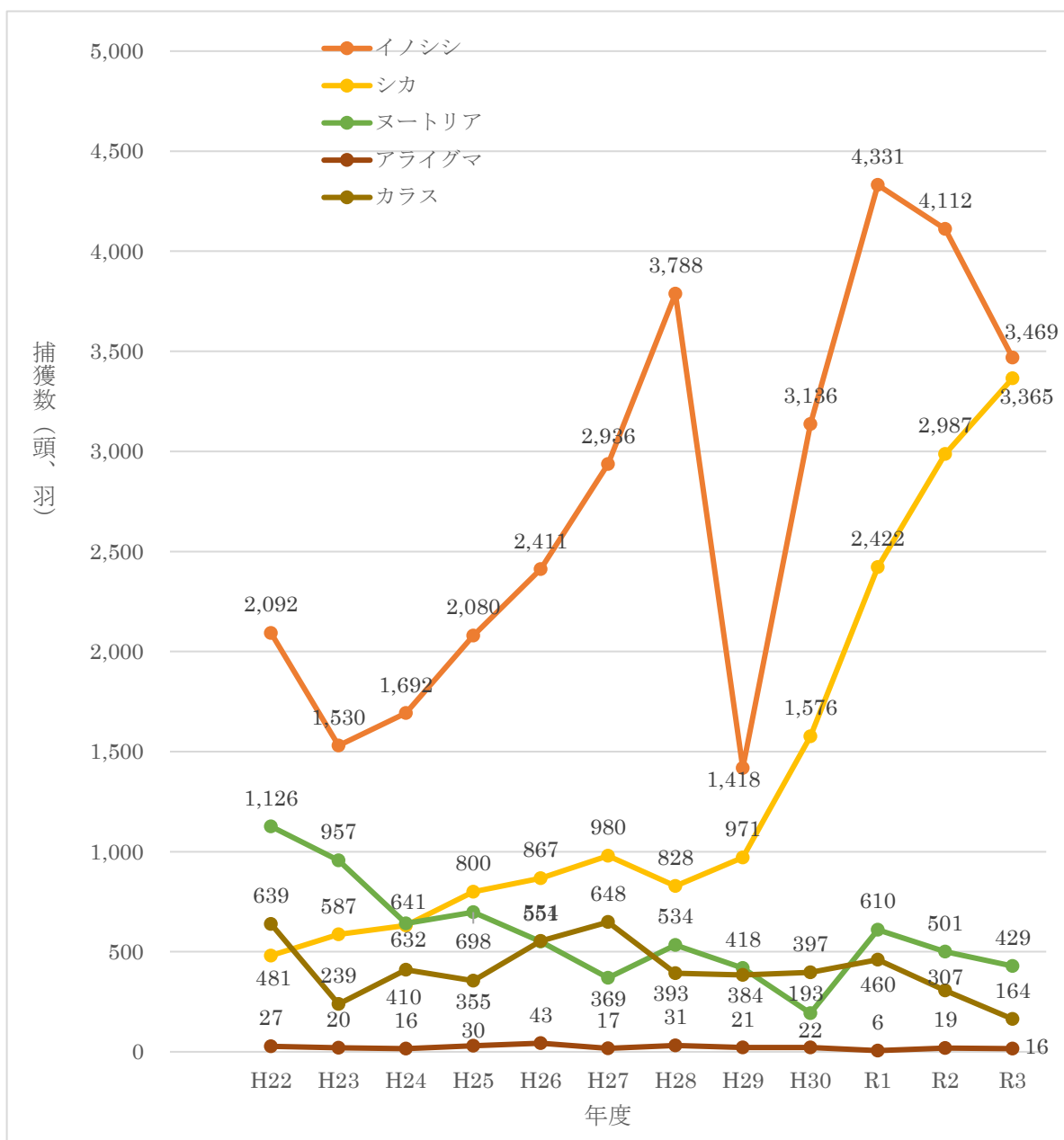
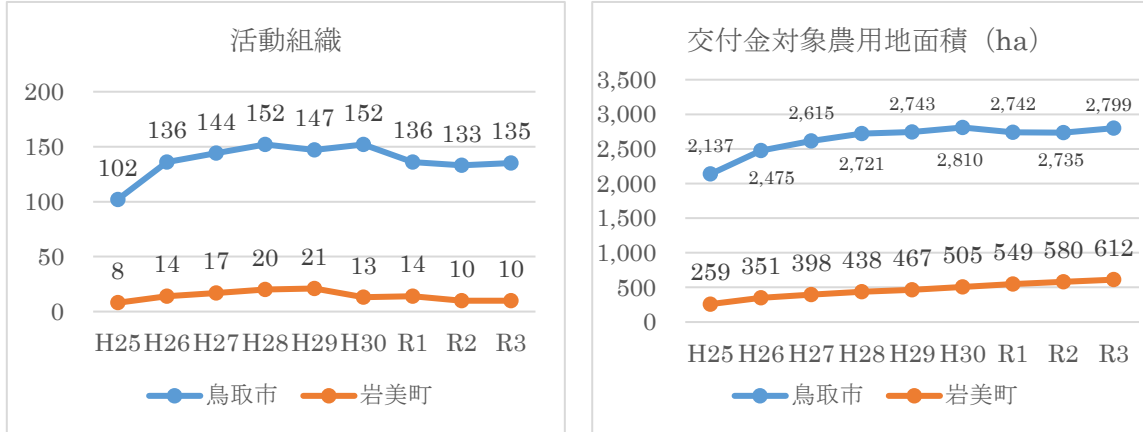


図2 東部管内 (鳥取市、岩美町) における野生鳥獣による捕獲実績の推移

VI 日本型直接支払制度の取り組み概要

1 多面的機能支払交付金（農地維持）

活動組織数及び活動組織取り組み面積は令和3年度は増となった。活動組織取り組み面積は農振農用地面積の55.8%を占める。（東部地区の農振農用地面積は、6,116ha）



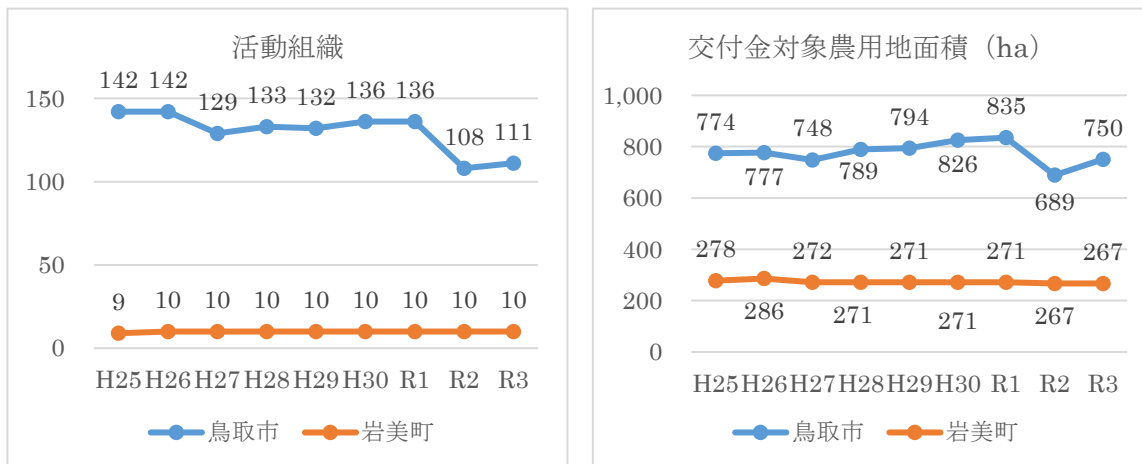
令和3年度 農地・水保全課調べ

農振農用地面積については、経営支援課の確保すべき農用地等の面積の目標達成状況に関する調査（令和2年12月31日現在）

なお、農地水保全管理支払交付金（共同活動支援交付金、向上活動支援交付金）は、平成26年度より多面的機能支払（農地維持支払交付金、資源向上支払交付金）に移行。

2 中山間地域等直接支払交付金

活動組織数及び活動組織取り組み面積は大きく減少した。活動組織取り組み面積は農振農用地面積の16.6%を占める。（東部地区の農振農用地面積は、6,116ha）

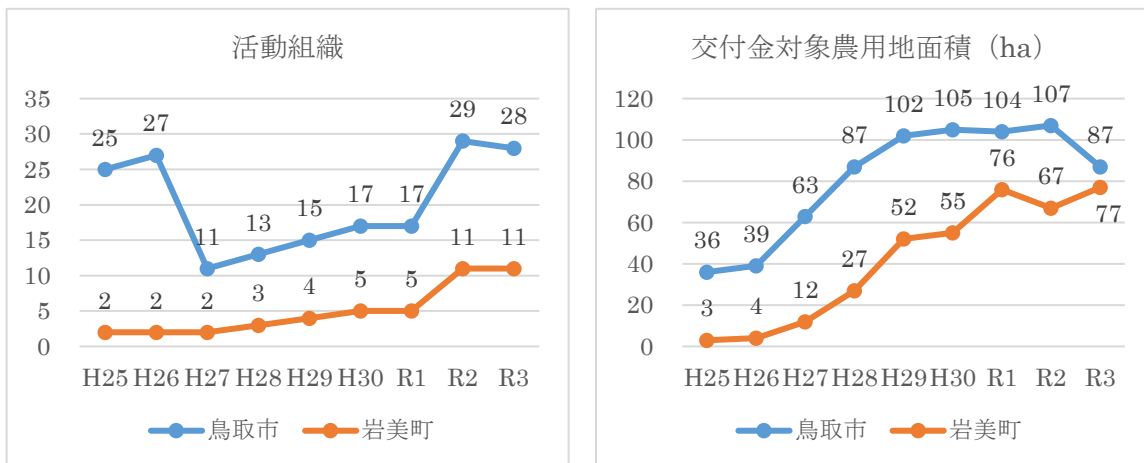


令和3年度 農地・水保全課調べ

農振農用地面積については、経営支援課の確保すべき農用地等の面積の目標達成状況に関する調査（令和2年12月31日現在）

3 環境保全型農業直接支払交付金

活動組織数及び活動組織取り組み面積は年々増加の傾向にある。活動組織取り組み面積は農振農用地面積の2.7%を占める。(東部地区の農振農用地面積は、6,116ha)



令和3年度 鳥取市、岩美町の実績報告

農振農用地面積については、経営支援課の確保すべき農用地等の面積の目標達成状況に関する調査(令和2年12月31日現在)

(注) 平成27年度から、交付金支援対象が農業者個人から農業者の組織する団体等へ変更

Ⅶ 集落営農法人一覧

令和4年3月現在

NO	名称	市町	設立年月	組合員数(戸)
1	(農)良田生産組合	鳥取市	H11.6	12
2	(農)邑美水稻生産組合	鳥取市	H11	106
3	(農)ラブグリーン細見	鳥取市	H14.2	17
4	(農)大谷生産組合	岩美町	H17.3	141
5	(農)北村生産組合	鳥取市	H17.11	23
6	(農)向国安生産組合	鳥取市	H19.2	12
7	(農)ファームかみだん	鳥取市	H19.3	19
8	(農)朝月農業生産組合	鳥取市	H19.3	42
9	(農)らくあい農場高路	鳥取市	H19.4	18
10	(農)たにひとつぎ	鳥取市河原町	H19.5	35
11	(農)因幡白兔	鳥取市	H19.10	60
12	(農)小別所生産組合	鳥取市鹿野町	H20.4	29
13	(農)山根営農組合	鳥取市国府町	H20.4	10
14	(農)小田みなみ	岩美町	H21.3	43
15	(農)ファームなかいいち	鳥取市河原町	H23.4	21
16	(農)日光農産	鳥取市気高町	H23.12	34
17	(農)ドリームファーム二上	岩美町	H27.1	62
18	(農)まごころ農場ひろせ	鳥取市国府町	H27.4	22
19	(農)白地農業生産管理組合	岩美町	H27.9	54
20	(農)ふしの	鳥取市	H28.5	55
21	(農)河内こわらび	鳥取市	H29.5	19
22	(農)やまね	鳥取市青谷町	H30.9	10